

厚生労働科学研究費補助金

地域医療基盤開発推進研究事業

歯科技工業の多様な業務モデルに関する研究

(H29-医療-一般-002)

平成 29 年度 総括研究報告書

研究代表者 赤川 安正

平成 30 (2018) 年 5 月

目次

・ 総括研究報告

歯科技工業の多様な業務モデルに関する研究 -----	1
赤川安正	

研究要旨 -----	1
A. 研究目的 -----	4
B. 研究方法 -----	4
C. 研究結果 -----	5
D. 考察 -----	18
E. 結論 -----	19
F. 健康危険情報 -----	20
G. 研究発表 -----	20
H. 知的財産権の出願・登録状況 -----	20
I. 参考文献 -----	20

(資料1) 研究の概要図 -----	21
--------------------	----

(資料2-1) 質問票(歯科技工所用) -----	22
---------------------------	----

(資料2-2) 質問票(歯科医療機関用) -----	24
----------------------------	----

(資料2-3) 質問票(歯科技工士用) -----	26
---------------------------	----

(資料3-1) 集計表(歯科技工所) -----	28
--------------------------	----

(資料3-2) 集計表(歯科医療機関) -----	31
---------------------------	----

(資料3-3-1) 集計表(歯科技工士:歯科技工所勤務) -----	34
------------------------------------	----

(資料3-3-2) 集計表(歯科技工士:歯科医療機関勤務) -----	37
-------------------------------------	----

・ 研究成果の刊行に関する一覧表 -----	40
------------------------	----

歯科技工業の多様な業務モデルに関する研究

研究代表者 赤川 安正 昭和大学客員教授

研究要旨

【目的と概要】

歯科技工士を取り巻く労働環境は厳しさを増しており、加えて、歯科技工士の高齢化や歯科技工士学校養成所の定員割れが続いて若手歯科技工士の参入が乏しくなり、将来的に歯科技工業の担い手である歯科技工士の不足が予測されている。このような問題を解決するためには、歯科技工業の労働実態を正確に把握し、その労働環境を構成する要素ごとに論点を整理し、労働環境の改善を図ることが急務であると考えられる。本研究の目的は、歯科技工業の実態を正確に把握して、労働環境等の改善に資する提言や多様な業務モデルを導入するためのマニュアルを作成することにある。

【材料と方法】

歯科技工所や歯科技工士に対する質問票調査を実施し、調査結果を分析することにより、歯科技工士の労働実態を明らかにし、労働環境等の改善に資する歯科技工業に関する提言やマニュアル作成を行う計画を立案した。歯科技工所については、自治体のホームページに公開されている歯科技工所を対象とし、全国を6ブロックに分けたうえで、各ブロックで対象の多い都道府県の歯科技工所、合計4,009施設を調査対象とした。また、歯科医療機関については、日本歯科医師会の会員の中から無作為に抽出した750施設を調査対象とした。さらに、歯科技工士については、対象の歯科技工所や歯科医療機関に勤務する歯科技工士を調査対象とした。

【結果】

歯科技工所から429通、歯科医療機関から576通、歯科技工士（歯科技工所勤務）から319通、歯科技工士（歯科医療機関勤務）から167通の回答を得た。歯科技工所の直近3年間での売り上げ状況は、「変化なし」が24.8%、「増加傾向」が18.1%、「減少傾向」が53.9%となっており、減少傾向との回答が半数を超えていた。また、歯科技工所の直近3年間での職員数の変化は、「変化なし」が74.1%、「増加傾向」が7.8%、「減少傾向」が7.6%となっており、変化なしとの回答が多かった。歯科技工所の入社時における従業員との雇用契約についての問いには、「家族以外の従業員がいないため不要」が60.2%であった。また、就業規則の作成についての問いには、「作成していない」が77.8%であった。労働環境改善への取り組み内容としては、「作業環境の不具合がないようにする」が71.3%で最も多く、次いで「作業環境に関する新しい情報を入手する」が29.8%、「従業員の意見を積極的に取り入れる」が19.1%であった。また、歯科技工業業務の効率化への取り組み内容とし

ては、「特定の補てつ物等のみの受注を行っている」が 39.4%で最も多く、次いで「補てつ物等の種類に応じて担当制としている」が 26.3%、「新しい機器を導入している」が 24.9%であった。補てつ物等の製作における業務形態としては、「全患者を 1 人で担当」する形態が最も多く、「患者毎に分担」や「作業工程毎に分担」は少なかった。また、直近 3 年間での補てつ物等の製作個数の変化は、補てつ物によって異なり、クラウンブリッジは減少傾向であったが、CAD/CAM 冠は増加傾向であった。有床義歯はやや減少傾向、インプラント上部構造や矯正装置はあまり変化がなかった。直近 3 年間でトラブルが原因の歯科医療機関との取引中止の問いに、26.6%の歯科技工所が「ある」と回答した。また、トラブルの内容としては、「料金」や「補てつ物等に関する考え方の相違」が多かった。さらに、補てつ物等の製作受託に関して歯科医療機関と契約書を取り交わしている歯科技工所は 8.1%にすぎなかった。また、契約書を取り交わしている場合の契約項目としては、「契約内容」と「報酬金額」が多かった。歯科医療機関への調査において、補てつ物等の製作場所としては、「すべてを歯科技工所に委託」が 43.4%で最も多く、次いで「大部分を歯科技工所に委託、一部は院内」が 28.3%、「一部を歯科技工所に委託、大部分は院内」が 18.2%であった。「すべてを院内で製作」は 2.1%にすぎなかった。歯科技工士（歯科技工所勤務）への調査において、1 日平均就労時間は、中央値で 10 時間（2～20 時間）であり、そのうち残業時間は 2 時間であった。また、直近 3 年間の就労時間の変化は、やや減少傾向であった。また、1 カ月の残業時間をみたところ、「ほとんどない」が 30.7%、「45 時間未満」が 15.0%、「45 時間以上」が 13.2%、「80 時間以上」が 9.7%、「100 時間以上」が 18.8%であった。職務内容に対する意識では、「社会の人々は、私の仕事を尊敬するに値する仕事だと思っている」の質問と「私は仕事をしていて着実な人生設計がたてられる」の質問において、否定的意見が多かった。

【考察】

直近 3 年間の歯科技工所の職員数の変化は小さく、15.3%の歯科技工所で歯科技工士を新規に採用していたが、多くの歯科技工所では新規採用はなかった。この主な理由として、人員や業務に変化がなかったことが挙げられる。歯科技工士の就労時間は、直近 3 年間でやや減少傾向であったが、これは歯科技工所の管理者が労働環境の改善に取り組んでいることによるものと考えられる。一方、1 ヶ月残業時間の調査結果では、「100 時間以上」と回答した者が 18.8%いることから、歯科技工所によって労働環境に差があることも窺えた。歯科技工所における雇用契約についての問いには、「家族以外に従業員がいないため不要」が 60.2%であった。このことから、企業規模の小さな歯科技工所が多いことがわかった。また、就業規則を作成していない歯科技工所が 77.8%であったことから、労働環境を整備する上でも就業規則の作成が望まれる。労働環境改善のため、「作業環境の不具合がないようにする」、「作業環境に関する新しい情報を入手する」等に取り組んでいることがわかった。また、歯科技工業務の効率化のため、「特定の補てつ物等のみの受注を行っている」、「補てつ物等の種類に応じて担当制としている」、「新しい機器を導入している」等に取り組んでいることが明らかになった。また、直近 3 年間での補てつ物等

の製作個数の変化は、補てつ物によって異なり、クラウンブリッジは減少傾向であったが、CAD/CAM 冠は増加傾向であった。これは、歯科技工業の効率化に取り組んだ結果、また小臼歯ハイブリッドレジン冠が保険導入されたこと、などが考えられる。歯科医療機関と契約書を取り交わしている歯科技工所は 8.1%にすぎなかった（歯科医療機関への調査では 15.2%）。歯科技工所と歯科医療機関の間のトラブルとして、「料金」や「補てつ物等に関する考え方の相違」が挙げられており、トラブルを回避するためにも書面での契約が望まれる。歯科医療機関への調査で、海外技工の発注経験のある機関は 5.4%であることがわかった。また、海外技工に関する通知を知らない歯科医療機関が多かったことから、各種通知の周知の方法を検討する必要があると考えられる。歯科技工士の職務内容に対する意識については、仕事に対する興味や適性、やり甲斐などに関する質問には肯定的な意見が多かったものの、「社会の人々は、私の仕事を尊敬するに値する仕事だと思っている」の質問と「私は仕事をしていて着実な人生設計がたてられる」の質問において、否定的意見が多かった。これらのことから、将来を不安視している状況がうかがえ、今後の魅力ある歯科技工業を考える上に重要な論点を提示できた。

【結論】

歯科技工所や歯科技工士のみならず歯科医療機関も対象として質問票調査を行った。これにより、歯科技工業の業務形態や就労環境等の現状を把握することができた。また、歯科技工所と歯科医療機関との契約についても調査したことにより、歯科技工業への歯科医療機関の関わりを考えるきっかけになるものと考えられる。さらに、歯科技工士の職務内容に対する意識を調査したことは目新しく、歯科技工業を支える歯科技工士の労働環境の改善につながるものと期待する。この報告書は初年度のものである。質問票の回収から報告書をまとめるまでの時間が限られており、結果は単純集計に限った。いくつか数値に異常値とみなされるものがあること、詳細な解析が必要なこと、などから、最終年度となる次年度では、データを十分精査してクロス集計や分析を実行し、必要に応じて追加調査も行い、それらの結果を総括したい。これらを通じて、歯科技工業のさらなる発展のための提言・マニュアルの作成を目指す予定である。

研究分担者

佐藤裕二・昭和大学・教授

田地 豪・広島大学・准教授

小畑 真・北海道医療大学・客員教授

堀口逸子・慶應義塾大学・非常勤講師

下平 修・昭和大学・講師

研究協力者

三井博晶・日本歯科医師会・常務理事

清水潤一・日本歯科技工士会・常務理事

尾崎順男・全国歯科技工士教育協議会・会長

南部哲男・日本歯科技工所協会・理事長

A．研究目的

近年の歯科医療の進歩・発展に伴い、補綴装置にも高度でかつ複雑な要求が生まれており、その主体となる歯科技工業も多様化している。その一方で、歯科技工士を取り巻く労働環境は厳しさを増しており、加えて、歯科技工士の高齢化や歯科技工士学校養成所の定員割れが続いて若手歯科技工士の参入が乏しくなり、将来的に歯科技工業の担い手である歯科技工士の不足が予測されている。このような問題を解決するためには、歯科技工業の労働実態を正確に把握し、その労働環境を構成する要素ごとに論点を整理し、労働環境の改善を図ることが急務であると考えられる。

本研究の目的は、歯科技工業の実態を正確に把握して、労働環境等の改善に資する提言や多様な業務モデルを導入するためのマニュアルを作成することにある。

B．研究方法

歯科技工所や歯科技工士に対する質問票調査を実施し、調査結果を分析することにより、歯科技工士の労働実態を明らかにし、労働環境等の改善に資する歯科技工業に関する提言やマニュアル作成を行う計画を立案した。

(資料1：研究の概要図参照)

1. 調査対象

歯科技工所については、自治体のホームページに公開されている歯科技工所を対象とし、全国を6ブロックに分けたうえで、各ブロックで対象の多い都道府県の歯科技工所、合計4,009施設を調査対象とした。

歯科医療機関については、日本歯科医師会の会員の中から無作為に抽出した750施設を調査対象とした。

歯科技工士については、対象の歯科技工所や歯科医療機関に勤務する歯科技工士を調査対象とした。

2. 調査対象地域

北海道・東北ブロック：福島県

関東・甲信越ブロック：千葉県

東海・北陸ブロック：愛知県

近畿ブロック：大阪府

中国・四国ブロック：広島県

九州・沖縄ブロック：熊本県

以上を調査対象地域とした。

3. 調査研究方法

無記名の調査票を作成し、アンケート形式による往復郵送調査法とした。

4. 調査項目(内容)

1) 歯科技工所への質問票

- ・所在地
- ・開業年数、売上高
- ・職員採用
- ・就労時間
- ・雇用契約、就業規則
- ・労働環境、効率化
- ・業務形態、製作個数
- ・受託歯科医療機関

(資料2-1：質問票(歯科技工所用)参照)

2) 歯科医療機関への質問票

- ・所在地

- ・開業年数
- ・1日平均患者数
- ・補てつ患者の割合
- ・職員数
- ・補てつ物の製作場所
- ・歯科技工所との契約
- ・海外技工

(資料 2-2：質問票(歯科医療機関用)参照)

3) 歯科技工士への質問票

- ・勤務地
- ・年齢、性別
- ・就業先、就業年数
- ・業務形態、製作個数
- ・年収
- ・就労時間、残業時間
- ・職務内容への意識
- ・学習手段

(資料 2-3：質問票(歯科技工士用)参照)

5. 調査票回収数

発送数は、歯科技工所 4,009 通、歯科医療機関 750 通とした。回収数は、歯科技工所から 429 通、歯科医療機関から 576 通、歯科技工士(歯科技工所勤務)から 319 通、歯科技工士(歯科医療機関勤務)から 167 通であった。

6. 調査実施期間

歯科技工所に対しては、平成 29 年 12 月 5 日から 12 月 22 日までの間とし、歯科医療機関に対しては、平成 29 年 11 月 22 日から 12 月 15 日までの間とした。

(倫理面への配慮)

本調査は、昭和大学倫理審査委員会の承認(承認番号 2017-005 号)を経て実施した。

C . 研究結果

[1] 歯科技工所への質問票調査

1. 調査対象の所在地

調査対象の所在地、発送数、回収数は以下の通りである(表 1)。なお、宛先不明で返送された数は 313 通であった。

表 1 調査対象の所在地・発送数・回収数

ブロック(都道府県)	発送数	回収数
北海道・東北(福島県)	107	17
関東・甲信越(千葉県)	789	78
東海・北陸(愛知県)	1285	135
近畿(大阪府)	1171	95
中国・四国(広島県)	359	58
九州・沖縄(熊本県)	298	34
未回答		12
合計	4,009	429

2. 開業年数

開業年数は平均 24 年(1~75 年)であった。

3. 直近 3 年間での売り上げ状況

直近 3 年間での売り上げ状況は、「変化なし」が 24.8%、「増加傾向」が 18.1%、「減少傾向」が 53.9%となっており、減少傾向との回答が半数を超えていた(図 1)。

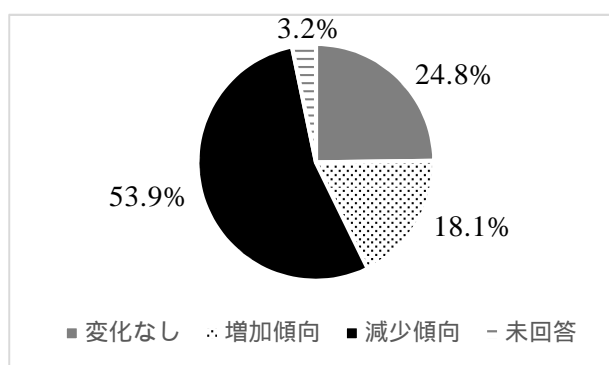


図 1 直近 3 年間での売り上げ状況

4. 職員の採用

直近 3 年間での職員数の変化は、「変化なし」が 74.1%、「増加傾向」が 7.8%、「減少

傾向」が7.6%となっており、変化なしとの回答が多かった（図2）。直近3年間に歯科技工士を新規に採用した歯科技工所は15.3%であった（図3）。新規に採用しなかった理由としては、「人員や業務に変化がなかった」が最も多く、次いで「業務量が減った」であった。

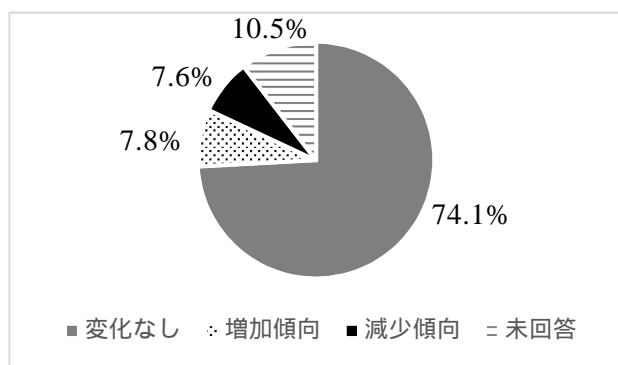


図2 直近3年間での職員数の変化

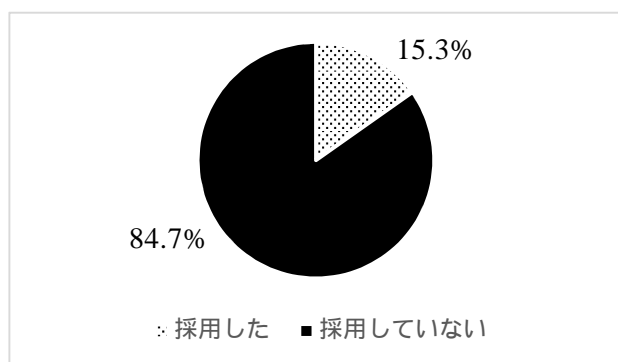


図3 直近3年間での歯科技工士の採用

5. 就労時間、休業日数

歯科技工所の1日平均営業時間は平均10.1時間であり、管理者の1日平均就労時間は平均10.3時間であった。また、歯科技工所の1カ月間の休業日数は平均5.3日であった。

6. 雇用契約、就業規則

入社時における従業員との雇用契約についての問いには、「家族以外の従業員がいないため不要」が60.2%であった（図4）。また、就業規則の作成についての問いには、

「作成していない」が77.8%であった（図5）。

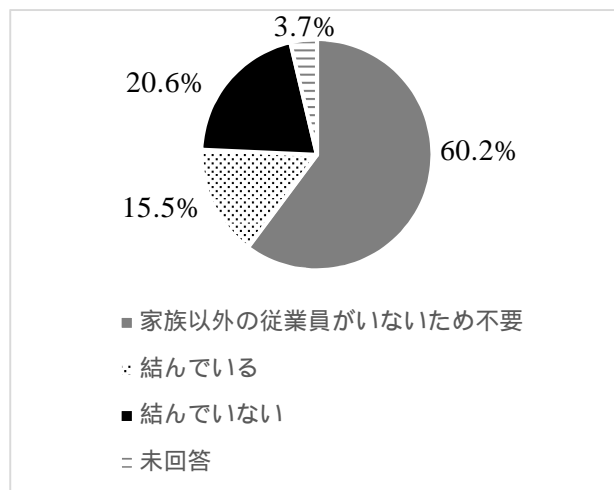


図4 雇用契約の締結

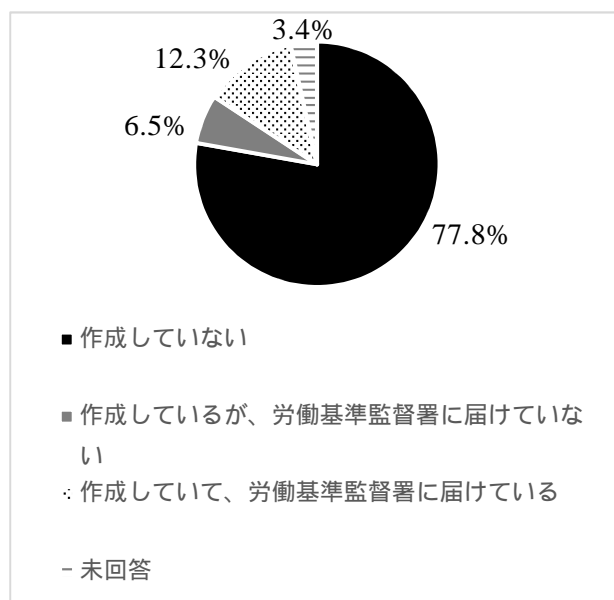


図5 就業規則の作成

7. 労働環境改善、効率化

労働環境改善への取り組み内容としては、「作業環境の不具合がないようにする」が71.3%で最も多く、次いで「作業環境に関する新しい情報を入手する」が29.8%、「従業員の意見を積極的に取り入れる」が19.1%であった（表2）。

また、歯科技工業務の効率化への取り組み内容としては、「特定の補てつ物等のみの受

注を行っている」が 39.4%で最も多く、次いで「補てつ物等の種類に応じて担当制としている」が 26.3%、「新しい機器を導入している」が 24.9%であった（表 3）。

表 2 労働環境改善への取組内容

作業環境の不具合がないようにする	71.3%
従業員の意見を積極的に取り入れる	19.1%
作業環境に関する新しい情報を入手する	29.8%
生涯学習を支援する	15.6%
その他	8.9%
未回答	19.8%

表 3 歯科技工業務の効率化への取組内容

補てつ物等の種類に応じて担当制としている	26.3%
特定の補てつ物等のみの受注を行っている	39.4%
ひとつの補てつ物等を作業工程ごとに分担している	13.8%
歯科技工業務を行う者とそれ以外の業務(営業や梱包等)の者を分けている	20.7%
新しい機器を導入している	24.9%
その他	8.9%
未回答	19.8%

8. 業務形態、製作個数

補てつ物等の製作における業務形態としては、「全患者を 1 人で担当」する形態が最も多く、「患者毎に分担」や「作業工程毎に分担」は少なかった。

また、直近 3 年間で補てつ物等の製作個数の変化は、補てつ物によって異なり、クラウンブリッジは減少傾向であったが、CAD/CAM 冠は増加傾向であった。有床義歯はやや減少傾向、インプラント上部構造や矯正装置はあまり変化がなかった。

9. 歯科医療機関とのトラブル

直近 3 年間でトラブルが原因の歯科医療機関との取引中止の問いに、26.6%の歯科技工

所が「ある」と回答した（図 6）。また、トラブルの内容としては、「料金」や「補てつ物等に関する考え方の相違」が多かった（図 7）。

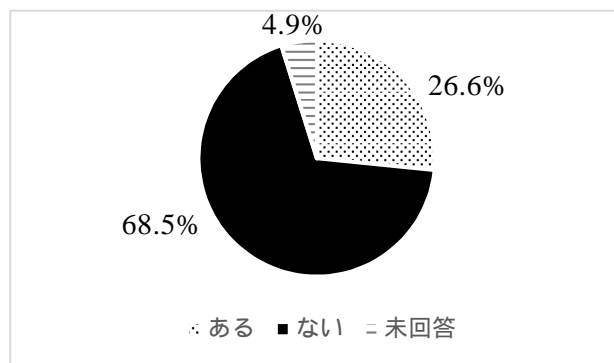


図 6 直近 3 年間でトラブルが原因の歯科医療機関との取引中止

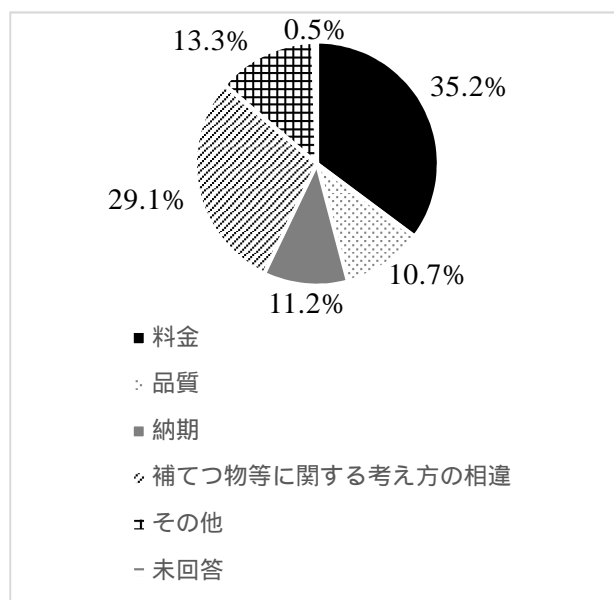


図 7 歯科医療機関とのトラブルの内容

10. 歯科医療機関との契約

補てつ物等の製作受託に関して歯科医療機関と契約書を取り交わしている歯科技工所は 8.1%にすぎなかった（図 8）。また、契約書を取り交わしている場合の契約項目としては、「契約内容」と「報酬金額」が多かった（図 9）。

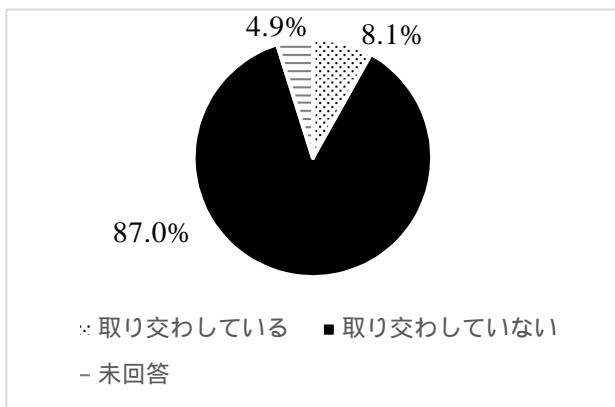


図 8 補てつ物等の製作受託に関する歯科医療機関との契約書

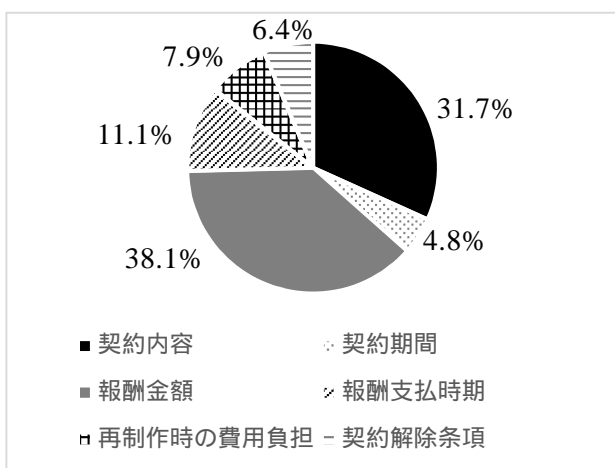


図 9 契約項目

(資料 3-1：集計表(歯科技工所)参照)

[2] 歯科医療機関への質問票調査

1. 調査対象の所在地

調査対象の所在地、発送数、回収数は以下の通りである(表 4)。

表 4 調査対象の所在地・発送数・回収数

ブロック	発送数	回収数
北海道・東北	110	90
関東・甲信越	150	124
東海・北陸	127	84
近畿	98	77
中国・四国	140	100
九州・沖縄	125	86

未回答		15
合計	750	576

2. 開業年数

開業年数は平均 24 年(1~95 年)であった。

3. 患者数

1 日平均患者数は平均 32 名(2~120 名)であった。

4. 補てつ物等を製作する患者の割合

全患者に対する補てつ物等を製作する患者の割合は、平均 35%(0~100%)であった。

5. 職員数

総職員数は平均 7.0 名(1~80 名)で、そのうち歯科医師数が平均 1.7 名(1~12 名)、歯科技工士数は平均 0.4 名(1~10 名)であった。

6. 補てつ物等の製作

補てつ物等の製作場所としては、「すべてを歯科技工所に委託」が 43.4%で最も多く、次いで「大部分を歯科技工所に委託、一部は院内」が 28.3%、「一部を歯科技工所に委託、大部分は院内」が 18.2%であった。「すべてを院内で製作」は 2.1%にすぎなかった(図 10)。

また、製作を委託している歯科技工所数は、平均 2.8 カ所(1~8 カ所)であり、1 種類の補てつ物等を複数の歯科技工所に委託するケース(種類)の有無を尋ねたところ、「ない」が 74.1%であった(図 11)。

さらに、補てつ物等の製作を委託した際のトラブルは、「ない・ほとんどない」が 81.7%であった(図 12)。

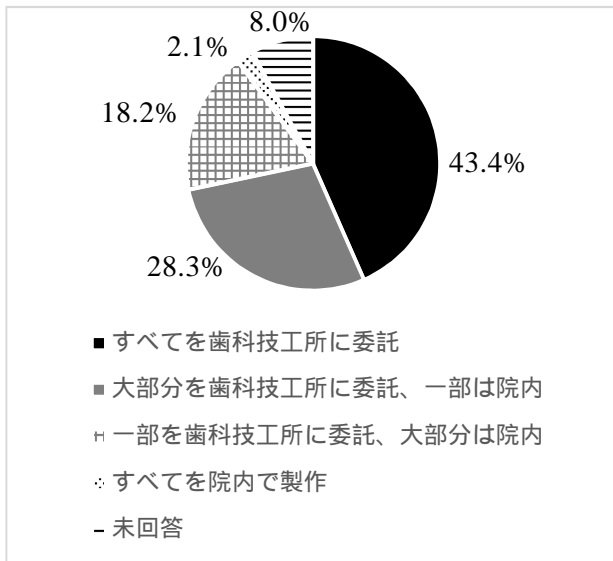


図 10 補てつ物等の製作場所

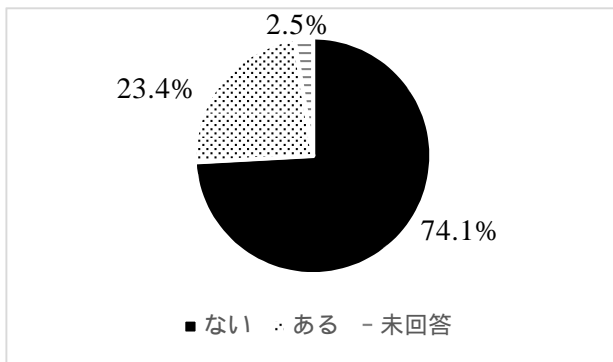


図 11 1 種類の補てつ物等を複数の歯科技工所に委託するケース（種類）

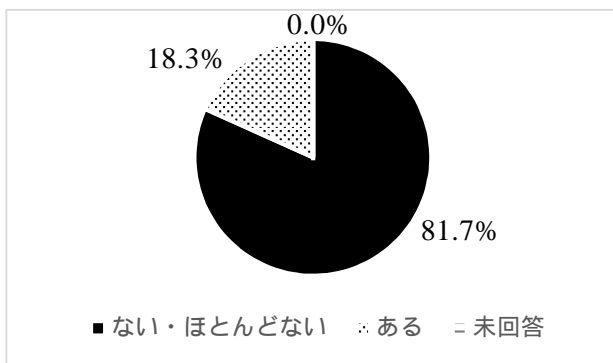


図 12 補てつ物等の製作を委託した際のトラブル

7. 歯科技工所との契約

補てつ物等の製作委託に関して歯科技工所と契約書を取り交わしている歯科医療機関は 15.2%であった（図 13）。また、契約書を取

り交わしている場合の契約項目としては、「契約内容」と「報酬金額」が多かった（図 14）。

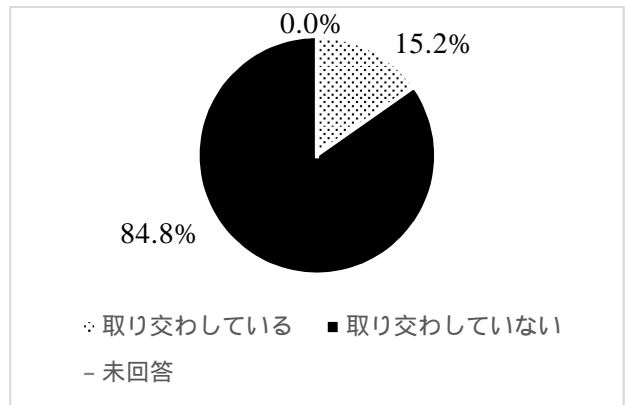


図 13 補てつ物等の製作委託に関する歯科技工所との契約書

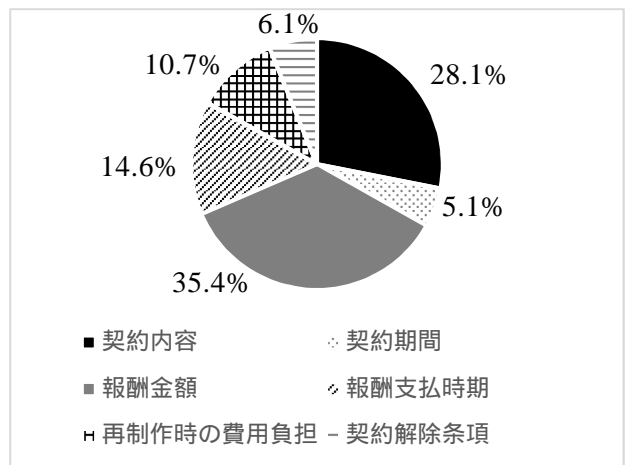


図 14 契約項目

8. 海外技工

海外技工に関する通知のうち、「国外で作成された補てつ物等の取り扱いについて」を知っている歯科医療機関は、知らないものよりも多かったが、「補てつ物等の作成を国外に委託する場合の使用材料の指示等について」や「歯科医療における補てつ物等のトレーサビリティに関する指針について」においては、知らない歯科医療機関の方が多かった（図 15～17）。また、海外技工の発注経験のある歯科医療機関は 5.4%と少なく、そのうち現在も発注している歯科医療機関は 3.1%

であった（図 18）。海外技工の発注物としては「有床義歯」が多く、発注先としては「中国」が多かった。外注技工に占める海外技工の割合が「1%未満」の歯科医療機関が多く、海外技工の最大の発注理由としては、「国内で製作する技術・材料がない」や「取引先の歯科技工所の勧め」が多かった。海外技工の発注経験がある歯科医療機関のうち、発注に際して患者の同意を得ているところは41.9%であった（図 19）。

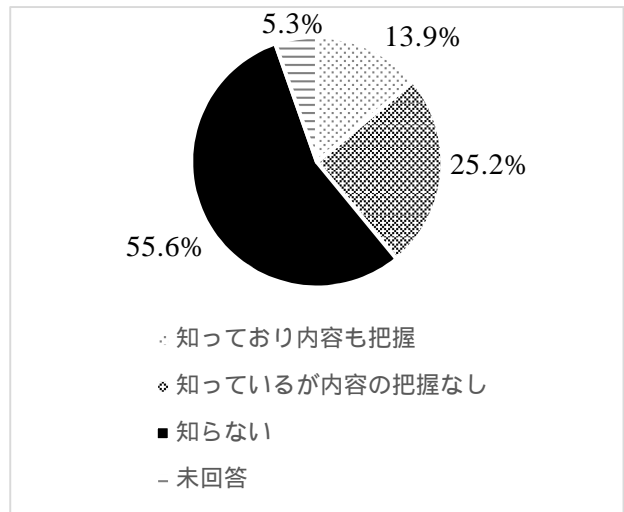


図 17 通知の認知（歯科医療における補てつ物等のトレーサビリティに関する指針について）

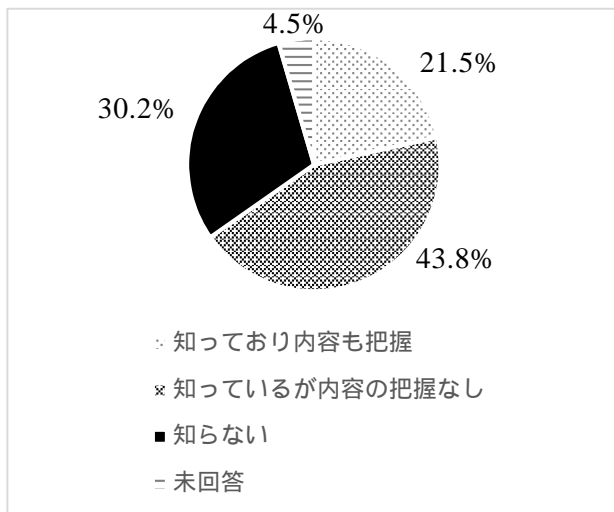


図 15 通知の認知（国外で作成された補てつ物等の取り扱いについて）

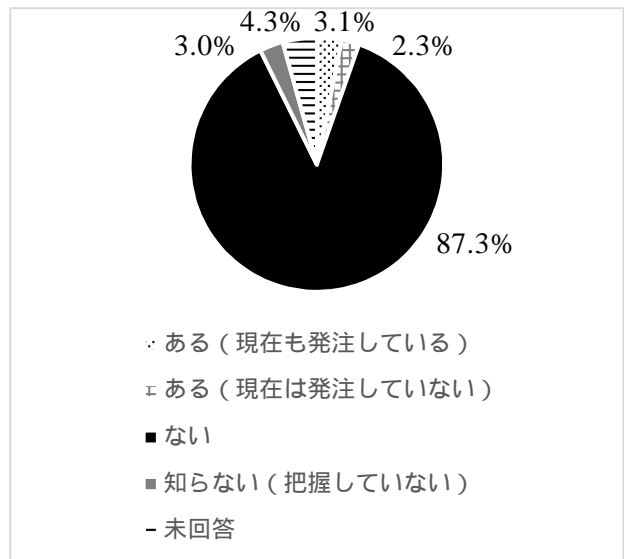


図 18 海外技工の発注経験

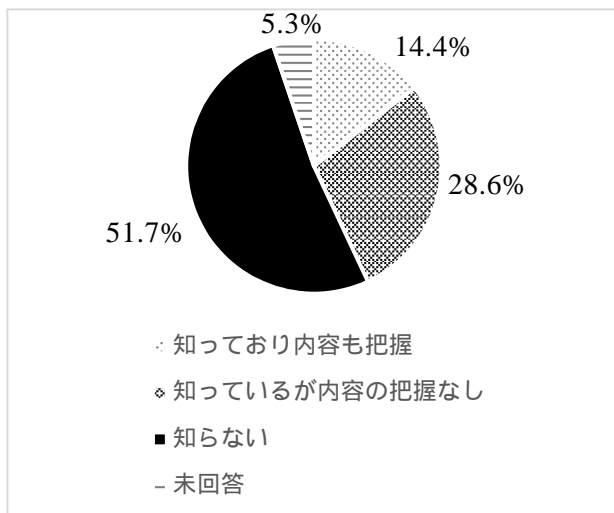


図 16 通知の認知（補てつ物等の作成を国外に委託する場合の使用材料の指示等について）

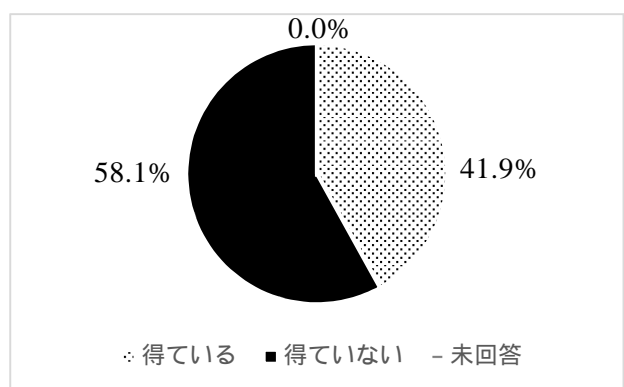


図 19 海外技工の発注に際しての患者の同意

(資料 3-2：集計表(歯科医療機関)参照)

[3-1] 歯科技工士（歯科技工所勤務）への質問票調査

1. 調査対象の勤務地

調査対象の所在地、回収数は以下の通りである（表 5）。

表 5 調査対象の所在地・回収数

ブロック(都道府県)	発送数	回収数
北海道・東北(福島県)	107	10
関東・甲信越(千葉県)	789	62
東海・北陸(愛知県)	1285	96
近畿(大阪府)	1171	78
中国・四国(広島県)	359	45
九州・沖縄(熊本県)	298	24
未回答		4
合計	4,009	319

2. 性別、年齢

調査対象の性別をみると、「男性」90.9%、「女性」8.8%であり、男性の割合が高かった（図 20）。また、年齢は中央値で 54 歳（22～79 歳）であった。

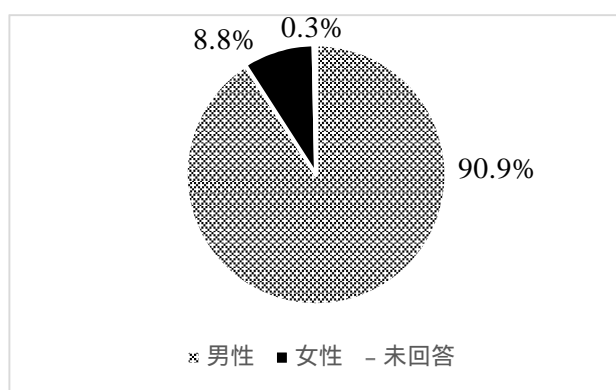


図 20 性別

3. 就業先、就業年数

現在の就業先は、「歯科技工所（管理者）」が 72.7%で最も多く、次いで「歯科技工所

（勤務者）」が 25.7%であった（図 21）。また、歯科技工士としての就業年数は中央値で 32 年（0.7～64 年）であり、現在就業している場所は中央値で 2 カ所目（1～24 カ所）、現在就業している場所には中央値で 19 年（0.7～56 年）勤めていることがわかった。

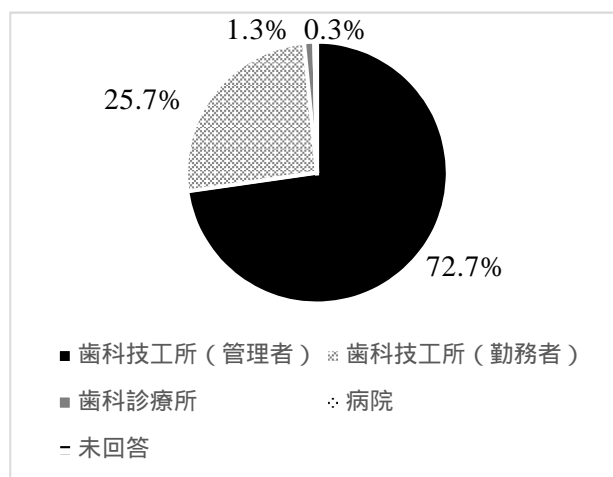


図 21 現在の就業先

4. 業務形態、製作個数

補てつ物等の製作における業務形態としては、「全患者を 1 人で担当」する形態が最も多く、「患者毎に分担」や「作業工程毎に分担」は少なかった。

また、直近 3 年間で補てつ物等の製作個数の変化は、補てつ物によって異なり、クラウンブリッジは減少傾向であったが、CAD/CAM 冠は増加傾向であった。有床義歯はやや減少傾向、インプラント上部構造や矯正装置はあまり変化がなかった。

製作している補てつ物等の自費の割合は、中央値で 1 割（0～10 割）であった。

5. 年収

歯科技工士としての前年（平成 28 年）の年収は、中央値で 360 万円であった。また、直近 3 年間の年収の変化は、やや減少傾向であった（図 22）。

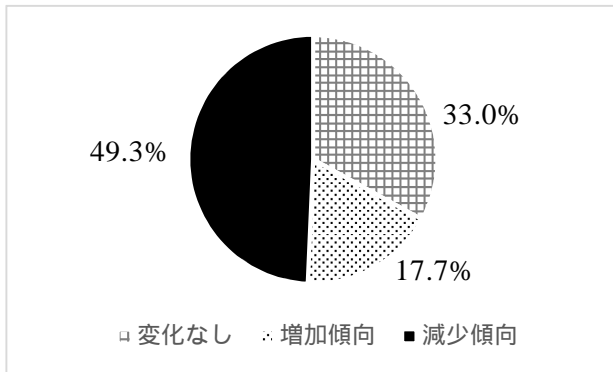


図 22 直近 3 年間の年収の変化

6. 就労時間、残業時間

1 日平均就労時間は、中央値で 10 時間（2～20 時間）であり、そのうち残業時間は 2 時間であった。また、直近 3 年間の就労時間の変化は、やや減少傾向であった（図 23）。

さらに、1 カ月の残業時間をみたところ、「ほとんどない」が 30.7%、「45 時間未満」が 15.0%、「45 時間以上」が 13.2%、「80 時間以上」が 9.7%、「100 時間以上」が 18.8% であった（図 24）。

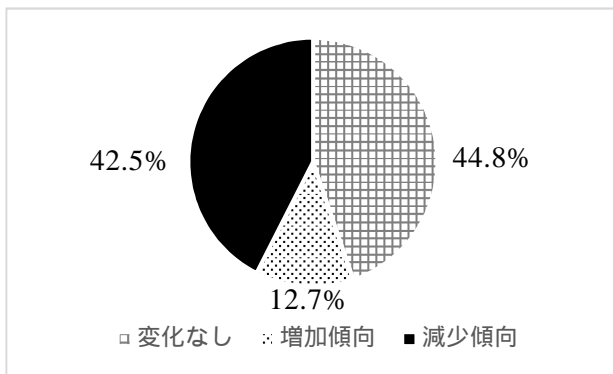


図 23 直近 3 年間の就労時間の変化

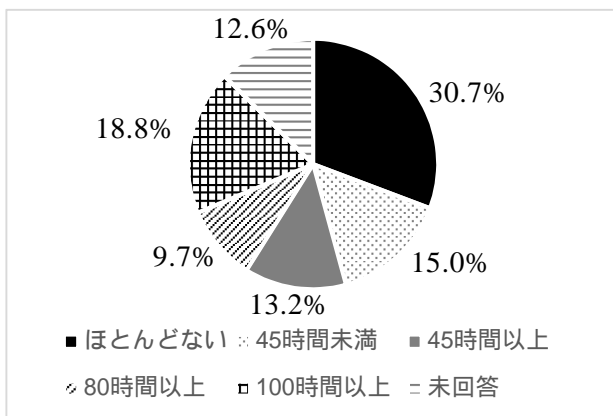


図 24 1 カ月の残業時間

7. 職務内容に対する意識

8 つの質問項目のうち、「社会の人々は、私の仕事を尊敬するに値する仕事だと思っている」の質問と「私は仕事をしていて着実な人生設計がたてられる」の質問において、肯定的意見よりも否定的意見の方が多かった（図 25～32）。

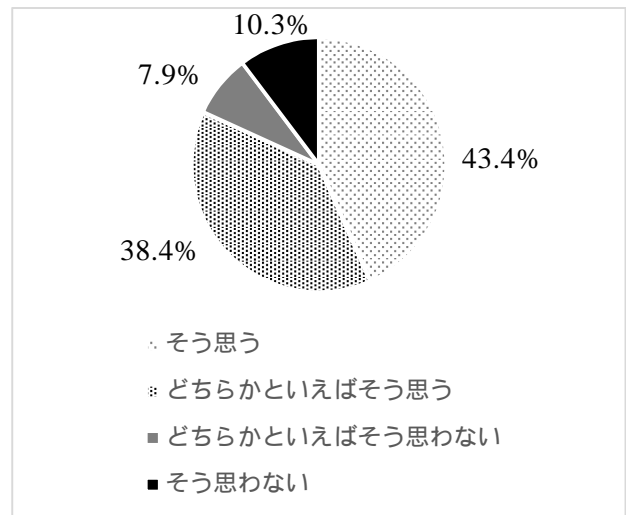


図 25 意識（私は今の仕事に興味をもっている）

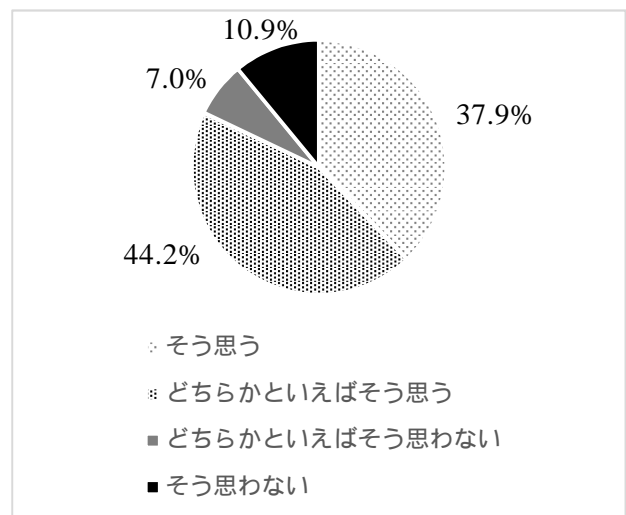


図 26 意識（私は仕事を通じて全体として成長した）

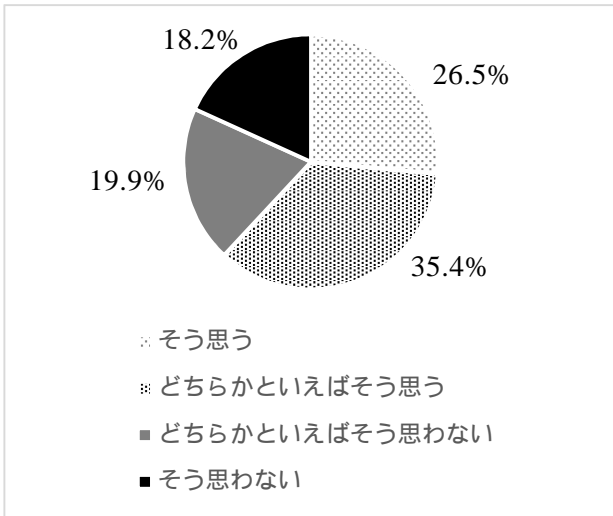


図 27 意識（私は歯科技工所や歯科診療所に勤めていたり開業していることを誇らしく思う）

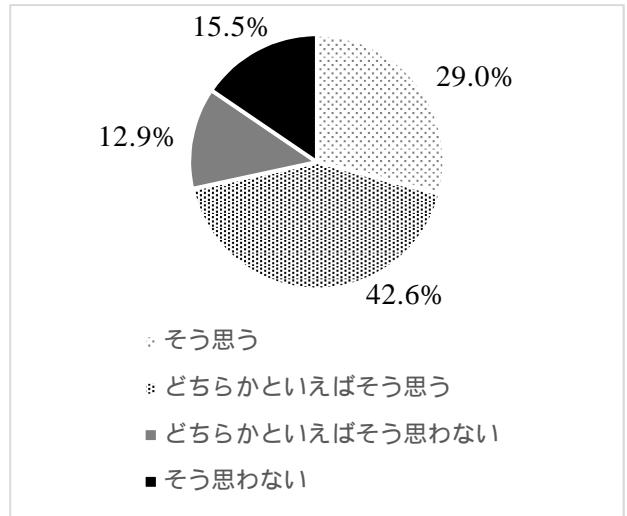


図 30 意識（私の仕事は「やり甲斐のある仕事をした」というかんじが得られる）

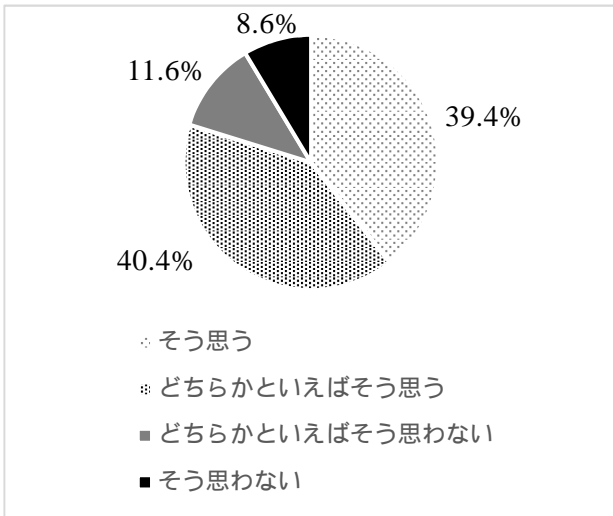


図 28 意識（今の仕事は私に適している）

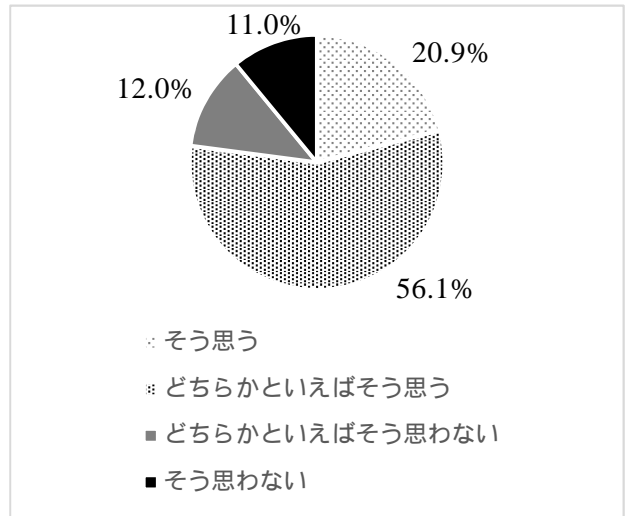


図 31 意識（私は同僚や受託している歯科医療機関のみんなに認められている）

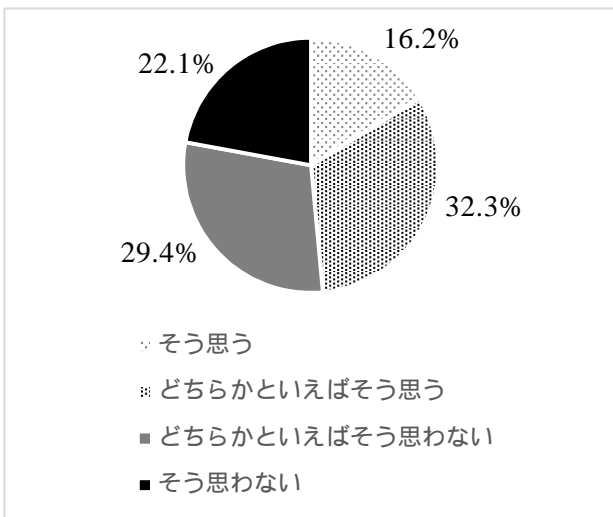


図 29 意識（社会の人々は、私の仕事を尊敬するに値する仕事だと思っている）

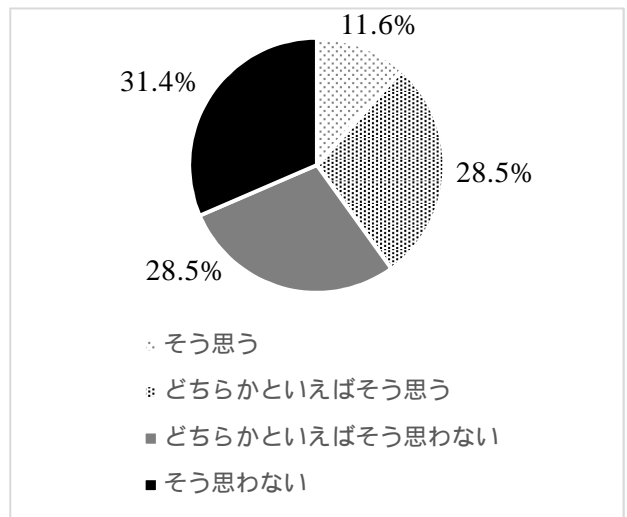


図 32 意識（私は仕事をしていて着実な人生設計がたてられる）

8. 学習手段

よく利用する歯科技工に関する学習手段としては、「専門誌」(55.5%)や「メーカー主催の研修会」(40.1%)を挙げる者が多かった(表6)。

表6 よく利用する歯科技工に関する学習手段

歯科技工士会等の生涯研修事業	23.5%
各種学会の学術大会	22.6%
スタディグループ	17.6%
メーカー主催の研修会	40.1%
専門誌	55.5%
卒後研修事業	6.0%
その他	5.3%

(資料3-3-1:集計表(歯科技工士:歯科技工所勤務)参照)

[3-2] 歯科技工士(歯科医療機関勤務)への質問票調査

1. 調査対象の勤務地

調査対象の所在地、回収数は以下の通りである(表7)。

表7 調査対象の所在地・回収数

ブロック	発送数	回収数
北海道・東北	110	40
関東・甲信越	150	12
東海・北陸	127	23
近畿	98	25
中国・四国	140	49
九州・沖縄	125	16
未回答		2
合計	750	167

2. 性別、年齢

調査対象の性別をみると、「男性」76.6%、「女性」22.8%であり、男性の割合が

高かった(図33)。また、年齢は中央値で49歳(20~80歳)であった。

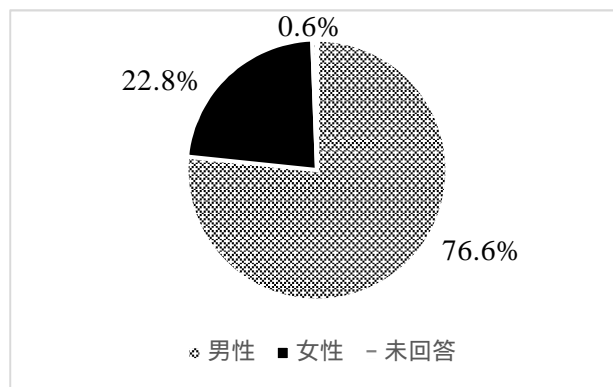


図33 性別

3. 就業先、就業年数

現在の就業先は、「歯科診療所(企業内診療所も含む)」が84.4%で最も多かった(図34)。また、歯科技工士としての就業年数は中央値で27年(0.5~62年)であり、現在就業している場所は中央値で2カ所目(1~8カ所)、現在就業している場所には中央値で20.5年(0.2~48年)勤めていることがわかった。

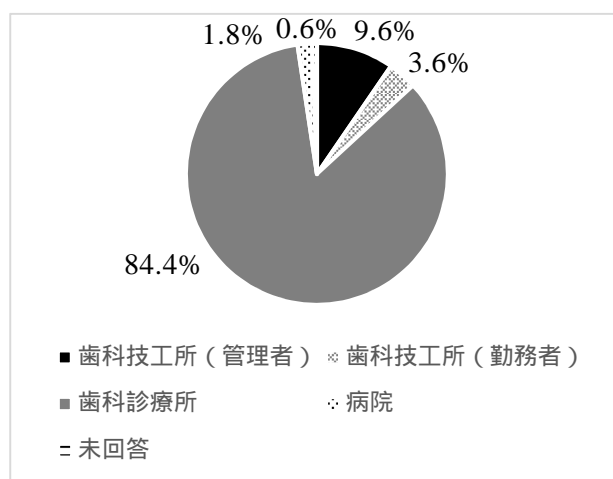


図34 現在の就業先

4. 業務形態、製作個数

補てつ物等の製作における業務形態としては、「全患者を1人で担当」する形態が最も多く、「患者毎に分担」や「作業工程毎に分

担」は少なかった。

また、直近3年間の補てつ物等の製作個数の変化は、補てつ物によって異なり、クラウンブリッジは減少傾向であったが、CAD/CAM冠は増加傾向であった。有床義歯やインプラント上部構造や矯正装置はやや減少傾向であった。

製作している補てつ物等の自費の割合は、中央値で1割(0~10割)であった。

5. 年収

歯科技工士としての前年(平成28年)の年収は、中央値で400万円であった。また、直近3年間の年収の変化は、やや増加傾向であった(図35)。

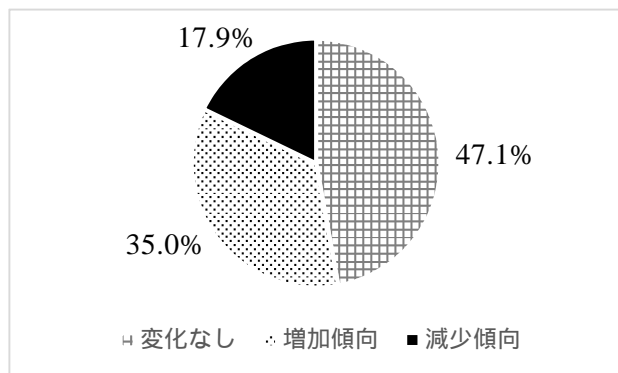


図35 直近3年間の年収の変化

6. 就労時間、残業時間

1日平均就労時間は、中央値で8時間(3~18時間)であり、そのうち残業時間は1時間であった。また、直近3年間の就労時間の変化は、やや減少傾向であった(図36)。

さらに1カ月の残業時間をみところ、「ほとんどない」が44.9%、「45時間未満」が35.3%、「45時間以上」が7.2%、「80時間以上」が4.2%、「100時間以上」が3.0%であった(図37)。

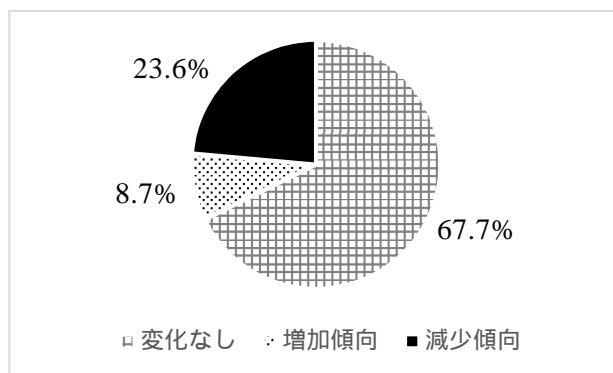


図36 直近3年間の就労時間の変化

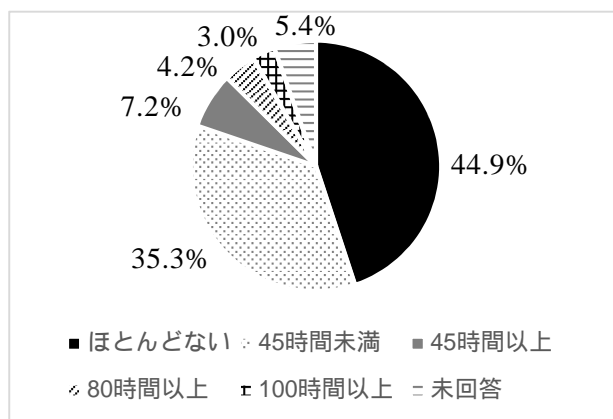


図37 1カ月の残業時間

7. 職務内容に対する意識

8つの質問項目のうち、「社会の人々は、私の仕事を尊敬するに値する仕事だと思っている」の質問と「私は仕事をされていて着実な人生設計がたてられる」の質問において、否定的意見が多かった(図38~45)。

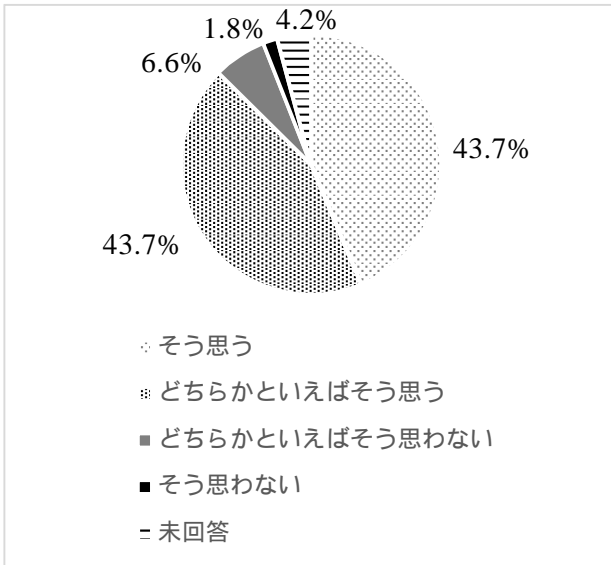


図 38 意識（私は今の仕事に興味をもっている）

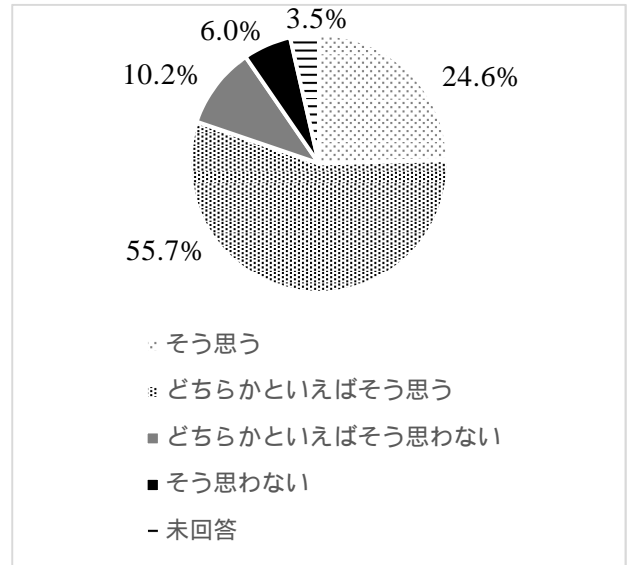


図 40 意識（私は歯科技工所や歯科診療所に勤めていたり開業していることを誇らしく思う）

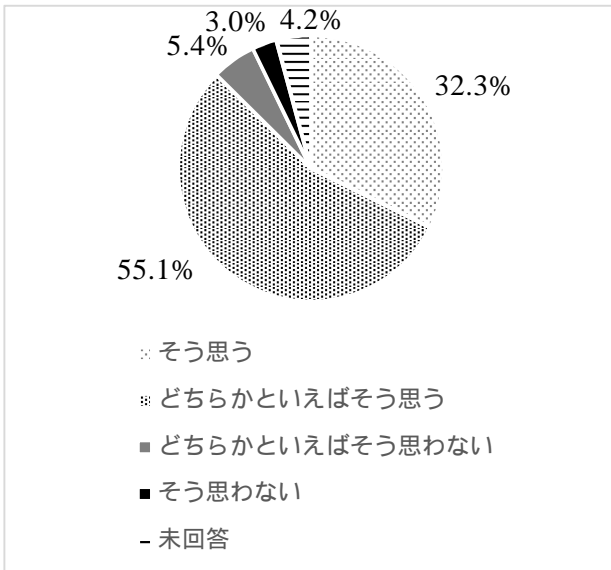


図 39 意識（私は仕事を通じて全体として成長した）

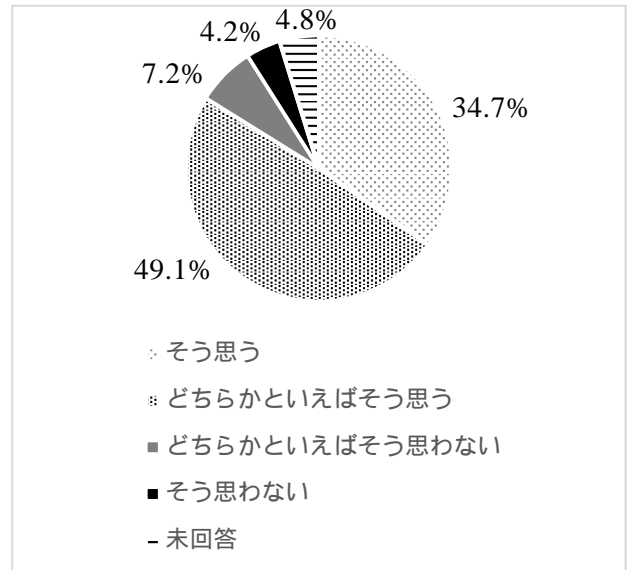


図 41 意識（今の仕事は私に適している）

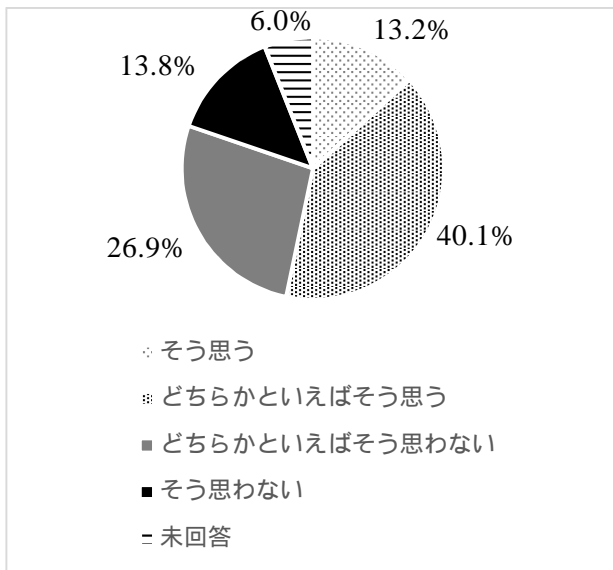


図 42 意識（社会の人々は、私の仕事を尊敬するに値する仕事だと思っている）

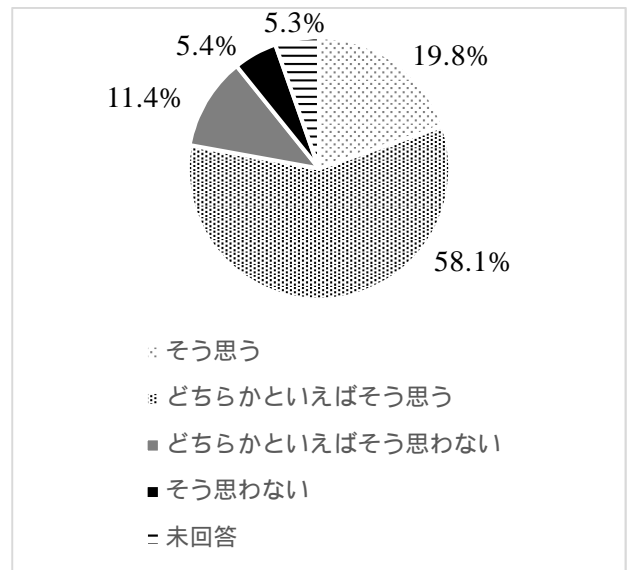


図 44 意識（私は同僚や受託している歯科医療機関のみんなに認められている）

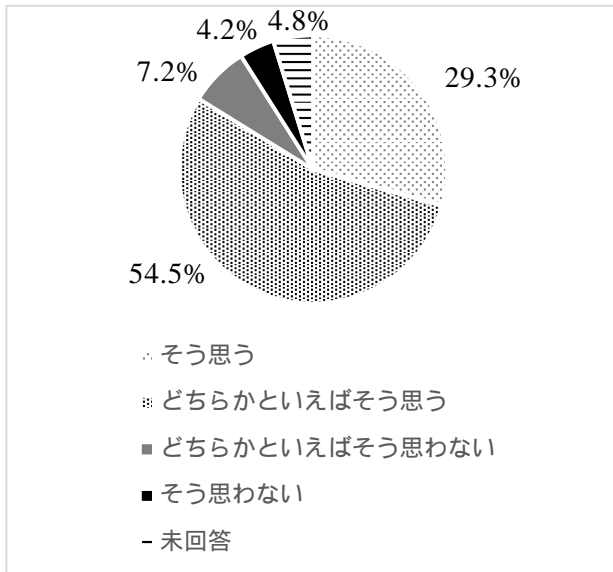


図 43 意識（私の仕事は「やり甲斐のある仕事をした」というかんじが得られる）

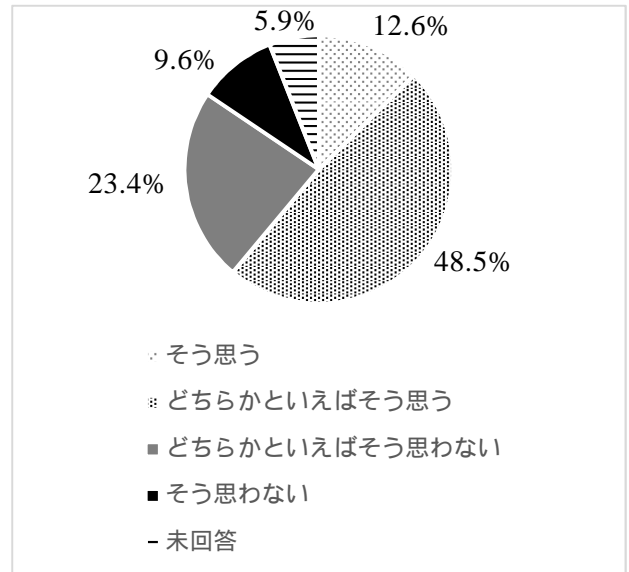


図 45 意識（私は仕事をしていて着実な人生設計がたてられる）

8. 学習手段

よく利用する歯科技工に関する学習手段としては、「専門誌」(61.1%)や「メーカー主催の研修会」(33.5%)を挙げる者が多かった(表8)。

表8 よく利用する歯科技工に関する学習手段

歯科技工士会等の生涯研修事業	18.6%
各種学会の学術大会	13.8%
スタディグループ	9.0%
メーカー主催の研修会	33.5%
専門誌	61.1%
卒後研修事業	4.2%
その他	11.4%

(資料3-3-2:集計表(歯科技工士:歯科医療機関勤務)参照)

D. 考察

1. 調査対象および調査目的について

これまでの歯科技工業の調査研究の問題点として、調査対象が限定的、委託契約の実態が不明、雇用契約の実態が不明、特定の技工内容に偏重、などが挙げられ、業務形態と労働環境との関係や契約の実態が不明なことから、歯科技工業の現状を把握する必要がある。そこで本研究では、質問票による調査を行った。

調査対象として、歯科技工所や歯科技工士のみならず、歯科医療機関も加えることにより、委託契約の実態も明らかにしようと考えた。また、調査対象が限定的にならぬよう、歯科技工所については自治体のホームページに公開されている歯科技工所を対象とし、全国を6ブロックに分けたうえで、各ブロックで対象の多い都道府県の歯科技工所、合計4,009施設を調査対象とした。対象の歯科技

工所から429通の回答が得られ、回収率は高いと言えないものの、様々な歯科技工所からの意見を得ることができたと考える。一方、対象の歯科医療機関からは576通の回答が得られ、回収率は76.8%であった。

歯科技工士については、歯科技工所勤務と歯科医療機関勤務に分けて調査した。これにより就労環境の違いについても論じることができると考えた。

2. 就労環境、業務形態について

1) 職員の採用について

直近3年間の歯科技工所の職員数の変化は小さく、15.3%の歯科技工所で歯科技工士を新規に採用していたが、多くの歯科技工所では新規採用はなかった。この主な理由として、人員や業務に変化がなかったことが挙げられる。

2) 就労時間、休業日数について

歯科技工所の1日平均営業時間は10.1時間で、管理者の1日平均就労時間は10.3時間、歯科技工士(歯科技工所勤務)は10時間(中央値)、歯科技工士(歯科医療機関勤務)は8時間(中央値)であった。歯科技工士の就労時間は、直近3年間でやや減少傾向であったが、これは歯科技工所の管理者が労働環境の改善に取り組んでいることによるものと考えられる。一方、1ヶ月残業時間の調査結果では、「100時間以上」と回答した者が18.8%いることから、歯科技工所によって労働環境に差があることも窺えた。

歯科技工所の1カ月の休業日数は平均5.3日であった。厚生労働省「平成29年就労条件総合調査」によると、1企業平均年間休日総数は108.3日である。企業規模や職種などを考慮する必要があるものの、歯科技工所の休業日数は少ないと言える。

3) 雇用契約、就業規則について

歯科技工所における雇用契約についての問いには、「家族以外に従業員がいないため不要」が60.2%であった。このことから、企業規模の小さな歯科技工所が多いことがわかった。また、就業規則を作成していない歯科技工所が77.8%であったことから、労働環境を整備する上でも就業規則の作成が望まれる。

4) 労働環境改善、業務の効率化について

労働環境改善のため、「作業環境の不具合がないようにする」、「作業環境に関する新しい情報を入手する」等に取り組んでいることがわかった。また、歯科技工業務の効率化のため、「特定の補てつ物等のみの受注を行っている」、「補てつ物等の種類に応じて担当制としている」、「新しい機器を導入している」等に取り組んでいることが明らかになった。

5) 業務形態について

補てつ物等の製作における業務形態としては、「全患者を1人で担当」する形態が最も多く、「患者毎に分担」や「作業工程毎に分担」は少なかった。企業規模の小さな歯科技工所では、自ずと「全患者を1人で担当」することになるため、このような結果になったものと考えられる。

また、直近3年間での補てつ物等の製作個数の変化は、補てつ物によって異なり、クラウンブリッジは減少傾向であったが、CAD/CAM冠は増加傾向であった。これは、歯科技工業務の効率化に取り組んだ結果、また小臼歯ハイブリッドレジン冠が保険導入されたこと、などが考えられる。

6) 歯科技工所と歯科医療機関との契約について

歯科医療機関と契約書を取り交わしている歯科技工所は8.1%にすぎなかった（歯科医療機関への調査では15.2%）。歯科技工所と歯科医療機関の間のトラブルとして、「料

金」や「補てつ物等に関する考え方の相違」が挙げられており、トラブルを回避するためにも書面での契約が望まれる。

7) 海外技工について

歯科医療機関への調査で、海外技工の発注経験のある機関は5.4%であることがわかった。また、海外技工に関する通知を知らない歯科医療機関が多かったことから、各種通知の周知の方法を検討する必要があると考えられる。

8) 歯科技工士の職務内容に対する意識について

仕事に対する興味や適性、やり甲斐などに関する質問には肯定的な意見が多かったものの、「社会の人々は、私の仕事を尊敬するに値する仕事だと思っている」の質問と「私は仕事をしていて着実な人生設計がたてられる」の質問において、否定的意見が多かった。これらのことから、将来を不安視している状況がうかがえ、今後の魅力ある歯科技工業を考える上に重要な論点を提示できた。

E . 結論

平成29年度「歯科技工業の多様な業務モデルに関する研究」では、歯科技工所や歯科技工士のみならず歯科医療機関も対象として質問票調査を行った。これにより、歯科技工業の業務形態や就労環境等の現状を把握することができた。また、歯科技工所と歯科医療機関との契約についても調査したことにより、歯科技工業への歯科医療機関の関わりを考えるきっかけになるものとする。さらに、歯科技工士の職務内容に対する意識を調査したことは目新しく、歯科技工業を支える歯科技工士の労働環境の改善につながるものと期待する。

この報告書は初年度のものである。質問票

の回収から報告書をまとめるまでの時間が限られており、結果は単純集計に限った。いくつか数値に異常値とみなされるものがあること、詳細な解析が必要なこと、などから、最終年度となる次年度では、データを十分精査してクロス集計や分析を実行し、必要に応じて追加調査も行い、それらの結果を総括したい。これらを通じて、歯科技工業のさらなる発展のための提言・マニュアルの作成を目指す予定である。

F．健康危険情報

なし

G．研究発表

日本歯科技工学会第40回学術大会（平成30年9月22日-23日、タワーホール船堀、東京）で発表予定。すでに演題を応募済み。

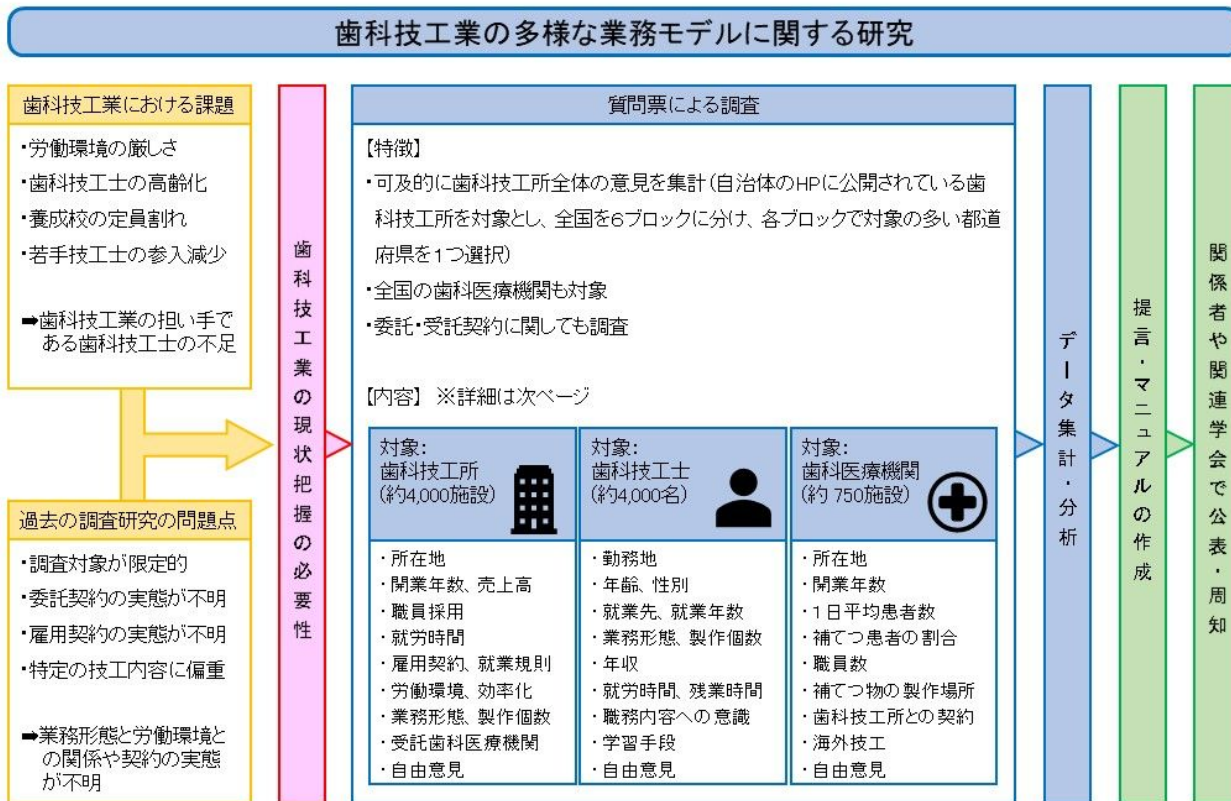
H．知的財産権の出願・登録状況

なし

I．参考文献

1. 公益社団法人日本歯科技工士会編．2015歯科技工士実態調査報告書．
2. 全国保険医団体連合会．2016年歯科技工所アンケート調査結果と概要報告．

資料 1：研究の概要図



資料 2-1：質問票（歯科技工所用）

平成 29 年度厚生労働科学研究
「歯科技工業の多様な業務モデルに関する研究」質問票
【歯科技工所（管理者）用】

この調査は、平成 29 年度厚生労働科学研究「歯科技工業の多様な業務モデルに関する研究」の一環で行われるもので、歯科技工士の労働実態等を把握・分析することで、歯科技工業の効率化や歯科技工士の労働環境の改善につながる提言等を行うことを目的としています。この調査は無記名で個人が特定されることはなく、回答内容は調査目的以外には使用いたしません。趣旨をご理解のうえ調査にご協力いただきますようお願いいたします。

←この調査に同意していただける場合はチェックをお願いいたします。

Q1. 所在する都道府県（○印は1つ）

1. 北海道・東北 2. 関東・甲信越 3. 東海・北陸 4. 近畿 5. 中国・四国 6. 九州・沖縄

Q2-1. 開業年数（整数を記入） () 年

Q2-2. 前年（平成 28 年）の売上高（税込） () 万円

Q2-3. 直近3年間での売り上げ状況（いずれかに○） 1. 変化なし 2. 増加傾向 3. 減少傾向

Q3-1. 現在の職員数と直近3年間での変化（カッコ内に記入し、増減はいずれかに○）

		a：人数	b：直近3年間での増減	c：増減数
1	総職員数（管理者・パート職員を含む）	() 名	1. 変化なし 2. 増加 3. 減少	() 名
2	男性歯科技工士数	() 名	1. 変化なし 2. 増加 3. 減少	() 名
3	女性歯科技工士数	() 名	1. 変化なし 2. 増加 3. 減少	() 名
4	うち、パート歯科技工士数	() 名	1. 変化なし 2. 増加 3. 減少	() 名

Q3-2. 直近3年間で歯科技工士（パートを含む）を新規に採用しましたか 1. はい 2. いいえ

Q3-3. 新規に採用しなかった場合の理由（当てはまるすべてに○）

1. 人員や業務に変化がなかった 2. 業務量が減った
3. 業務の縮小を図った 4. 募集しても来ない
5. 業務の効率化を図った 6. その他 ()

Q4-1. 貴所の1日平均営業時間（半日営業の日を除く、例：10時間） () 時間

Q4-2. あなたの1日平均就労時間（半日営業の日を除く、休憩を除く、例：7時間） () 時間

Q4-3. 貴所の1カ月間の休業日数（半日は0.5として記入） () 日

Q5-1. 貴所では入社時に従業員との間で書面にて雇用契約を結んでいますか（いずれかに○）

1. 家族以外の従業員がいけなため不要 2. 結んでいる 3. 結んでいない

Q5-2. 就業規則を作成していますか（いずれかに○）

1. 作成していない
2. 作成しているが、労働基準監督署に届けていない
3. 作成していて、労働基準監督署に届けている

Q6-1. 労働環境改善への取り組みの内容（当てはまるすべてに○）

1. 作業環境の不具合がないようにする 2. 従業員の意見を積極的に取り入れる
3. 作業環境に関する新しい情報を入手する 4. 生涯学習を支援する
5. その他 ()

(裏面に続く)

Q6-2. 歯科技工業務の効率化への取り組みの内容 (当てはまるすべてに○)

- | |
|---|
| 1. 補てつ物等の種類に応じて担当制としている |
| 2. 特定の補てつ物等のみの受注を行っている |
| 3. ひとつの補てつ物等を作業工程ごとに分担している |
| 4. 歯科技工業務を行う者とそれ以外の業務 (営業や梱包等) の者を分けている |
| 5. 新しい機器を導入している |
| 6. その他 () |

Q7. 補てつ物等における、業務形態、1カ月の製作個数、直近3年間の製作個数の変化 (当てはまるものは□に✓、業務形態、製作個数、変化はいずれかに○)

		a 業務形態				b 製作個数 (1カ月) * 歯冠修復物は「歯数」でカウント * 例: 3ユニットブリッジは「3」				c 製作個数の変化 (3年間)		
		全患者を1人で担当	患者毎に分担	作業工程毎に分担	その他	1から9	10から49	50から99	100以上	変化なし	増加傾向	減少傾向
1. クラウンブリッジ	1. 保険分 <input type="checkbox"/>	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3
	2. 自費分 <input type="checkbox"/>	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3
2. CAD/CAM 冠	1. 保険分 <input type="checkbox"/>	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3
	2. 自費分 <input type="checkbox"/>	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3
3. 有床義歯	1. 保険分 <input type="checkbox"/>	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3
	2. 自費分 <input type="checkbox"/>	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3
4. インプラント上部構造	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3
5. 矯正装置	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3

※具体的な業務形態 ()

Q8-1. 補てつ物等の製作を受託している歯科医療機関数 () か所

Q8-2. 直近3年間でトラブルが原因の歯科医療機関との取引中止がありますか 1. ある 2. ない

Q8-3. (Q7-2で「ある」の場合) そのトラブルはどれですか (当てはまるすべてに○)

- | | | | |
|------------|-------|-------|--------------------|
| 1. 料金 | 2. 品質 | 3. 納期 | 4. 補てつ物等に関する考え方の相違 |
| 5. その他 () | | | |

Q9-1. 補てつ物等の製作受託に関して歯科医療機関と契約書を取り交わしていますか 1. はい 2. いいえ

Q9-2. (Q8-1で「はい」の場合) 契約項目はどれですか (当てはまるすべてに○)

- | | |
|------------------------|-----------|
| 1. 契約内容 (補てつ物等の種類・量など) | 2. 契約期間 |
| 3. 報酬金額 | 4. 報酬支払時期 |
| 5. 再製作時の費用負担 | 6. 契約解除条項 |

Q10. 自由意見をお書き下さい

ご協力ありがとうございました。

以下に、国外での補てつ物等の製作（以下「海外技工」という）の委託についてお聞きします

Q8-1. 海外技工に関する下記の通知について（各項目で○印は1つ）

	知 つ て お り 内 容 も 把 握	知 つ て い る が 内 容 の 把 握 な し	知 ら な い
1. 国外で作成された補てつ物等の取り扱いについて（平成17年9月8日付け課長通知）	1	2	3
2. 補てつ物等の作成を国外に委託する場合の使用材料の指示等について（平成22年3月31日付け課長通知）	1	2	3
3. 歯科医療における補てつ物等のトレーサビリティに関する指針について（平成23年6月28日付け局長通知）	1	2	3

Q8-2. 海外技工の発注経験（いずれかに○）

1. ある（現在も発注している）	→ Q8-3以降へ
2. ある（現在は発注していない）	→ Q8-3以降へ
3. ない	→ Q9へ
4. 知らない（把握していない）	→ Q9へ

Q8-3. 海外技工の発注開始時期（いずれかに○）

1. 平成28年	2. 平成27年	3. 平成26年	4. 平成25年	5. 平成24年
6. 平成23年	7. 平成22年	8. 平成21年	9. 平成20年	10. 平成19年
11. 平成18年より前（平成 年 年から）				

Q8-4. 海外技工（自費）の発注物（当てはまるすべてに○）

1. クラウンブリッジ	2. 有床義歯	3. インプラント上部構造
4. 矯正装置	5. CAD/CAMによる補てつ物	6. その他（ ）

Q8-5. 海外技工の発注先（当てはまるすべてに○）

1. 中国	2. 韓国	3. その他のアジア諸国
4. アメリカ	5. EU諸国	6. 発注国を把握していない
7. その他（ ）		

Q8-6. 外注技工に占める海外技工の割合（○印は1つ）

1. 1%未満	2. 1%～5%未満	3. 5%～10%未満	4. 10%～20%未満	5. それ以上（ ）%
---------	------------	-------------	--------------	-------------

Q8-7. 海外技工の最大の発注理由（○印は1つ）

1. 精度が良い	2. 値段が安い	3. 安全性が高い
4. 国内で製作する技術・材料がない	5. 発注から納品までの時間が早い	
6. 保証期間が長い	7. 費用対効果が高い	8. 取引先の歯科技工所の勧め

Q8-8. 海外技工の発注に際しての患者の同意

1. 得ている	2. 得ていない
---------	----------

Q9. 自由意見をお書き下さい（特に歯科技工に関して）

ご協力ありがとうございました。

資料 2-3：質問票（歯科技工士用）

平成 29 年度厚生労働科学研究
「歯科技工業の多様な業務モデルに関する研究」質問票
【歯科技工士用】【フルタイム勤務者用】

この調査は、平成 29 年度厚生労働科学研究「歯科技工業の多様な業務モデルに関する研究」の一環で行われるもので、歯科技工士の労働実態等を把握・分析することで、歯科技工業の効率化や歯科技工士の労働環境の改善につながる提言等を行うことを目的としています。この調査は無記名で個人が特定されることはなく、回答内容は調査目的以外には使用いたしません。趣旨をご理解のうえ調査にご協力いただきますようお願いいたします。

←この調査に同意していただける場合はチェックをお願いいたします。

Q1. 勤務する都道府県（○印は1つ）

1. 北海道・東北 2. 関東・甲信越 3. 東海・北陸 4. 近畿 5. 中国・四国 6. 九州・沖縄

Q2. 性別（数字に○）

1. 男性 2. 女性

Q3. 年齢（整数を記入）

() 歳

Q4. 現在の就業先（○印は1つ）

1. 歯科技工所（管理者） 2. 歯科技工所（勤務者） 3. 歯科診療所（企業内診療所も含む）
4. 病院

Q5. 歯科技工士としての就業年数（パート・アルバイトを含む）

総計：() 年

現在就業している場所での年数：() 年

現在就業している場所：() カ所目

Q6. 補てつ物等を製作している方のみ回答下さい

Q6-1. 補てつ物等における、業務形態、1カ月の製作個数、直近3年間の製作個数の変化

（当てはまるものは□に✓、業務形態、製作個数、変化はいずれかに○）

	a 業務形態				b 製作個数（1カ月） *歯冠修復物は「歯数」でカウント *例：3ユニットブリッジは「3」				c 製作個数の変化（3年間）			
	全患者を1人で担当	患者毎に分担	作業工程毎に分担	その他	1から4	5から9	10から29	30以上	変化なし	増加傾向	減少傾向	
1. クラウンブリッジ	1.保険分 <input type="checkbox"/>	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3
	2.自費分 <input type="checkbox"/>	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3
2. CAD/CAM 冠	1.保険分 <input type="checkbox"/>	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3
	2.自費分 <input type="checkbox"/>	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3
3. 有床義歯	1.保険分 <input type="checkbox"/>	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3
	2.自費分 <input type="checkbox"/>	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3
4. インプラント上部構造	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3
5. 矯正装置	<input type="checkbox"/>	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3

※具体的な業務形態（ ）
（裏面に続く）

Q6-2. 製作している補てつ物等の自費の割合 () 割

Q7-1. あなたの歯科技工士としての前年（平成28年）の年収
() 万円

Q7-2. あなたの歯科技工士としての年収の直近3年間の変化（いずれかに○）
1. 変化なし 2. 増加傾向 3. 減少傾向

Q8-1. あなたの1日平均就労時間（半日営業の日を除く、休憩を除く、例：7.5時間）
() 時間、そのうち残業：() 時間

Q8-2. あなたの1日平均就労時間の直近3年間の変化（いずれかに○）
1. 変化なし 2. 増加傾向 3. 減少傾向

Q8-3. あなたの1カ月の残業時間（いずれかに○）
1. ほとんどない 2. 45時間未満 3. 45時間以上 4. 80時間以上 5. 100時間以上

Q9. あなたが職務内容についてもっている意識をお聞きます（いずれかに○）

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
1. 私は今の仕事に興味をもっている	1	2	3	4
2. 私は仕事を通じて全体として成長した	1	2	3	4
3. 私は歯科技工所や歯科診療所に勤めていたり開業していることを誇らしく思う	1	2	3	4
4. 今の仕事は私に適している	1	2	3	4
5. 社会の人々は、私の仕事を尊敬するに値する仕事だと思っている	1	2	3	4
6. 私の仕事は「やり甲斐のある仕事をした」というかんじが得られる	1	2	3	4
7. 私は同僚や受託している歯科医療機関のみんなに認められている	1	2	3	4
8. 私は仕事をしていて着実な人生設計がたてられる	1	2	3	4

Q10. あなたのよく利用する歯科技工に関する学習手段（当てはまるすべてに○）

1. 歯科技工士会等の生涯研修事業 2. 各種学会の学術大会 3. スタディグループ
4. メーカー主催の研修会 5. 専門誌 6. 卒後研修事業
7. その他 ()

Q11. 自由意見をお書き下さい（改善してもらいたいことを含めて）

ご協力ありがとうございました。

資料 3-1：集計表（歯科技工所）：回答数 429

Q1. 所在する都道府県

北海道・東北	関東・甲信越	東海・北陸	近畿	中国・四国	九州・沖縄	未回答
17	78	135	95	58	34	12

Q2-1. 開業年数

平均 24 年（1～75 年）（未回答 7）

Q2-2. 前年（平成 28 年）の売上高（税込）

間違った記入が多く、次年度精査予定

Q2-3. 直近 3 年間での売り上げ状況

変化なし	増加傾向	減少傾向	未回答
107	78	233	14

Q3-1. 現在の職員数と直近 3 年間での変化

	人数 (名)	直近 3 年間での増減			増減数 (名)	未回答
		変化なし	増加	減少		
総職員数	平均 12.1	304	32	31	4.6	43
男性歯科技工士数	平均 9.1	206	24	21	2.4	89
女性歯科技工士数	平均 7.2	125	25	12	4.6	251
うち、パート歯科技工士数	平均 1.9	304	32	31	4.8	251

異常値があるため、次年度精査予定

Q3-2. 直近 3 年間で歯科技工士（パートを含む）を新規に採用しましたか

はい	いいえ
65	361

Q3-3. 新規に採用しなかった場合の理由

人員や業務に変化がなかった	178
業務量が減った	92
業務の縮小を図った	33
募集しても来ない	42
業務の効率化を図った	12
その他	45

Q4-1. 貴所の 1 日平均営業時間

平均 10.1 時間（0～24 時間）（未記入 11）

異常値があるため、次年度精査予定

Q4-2. あなたの1日平均就労時間

平均 10.3 時間 (2~20 時間) (未記入 13) 異常値があるため、次年度精査予定

Q4-3. 貴所の1カ月間の休業日数

平均 5.3 日 (0~28 日) (未記入 17) 異常値があるため、次年度精査予定

Q5-1. 貴所では入社時に従業員との間で書面にて雇用契約を結んでいますか

家族以外の従業員がいないため不要	結んでいる	結んでいない	未回答
260	67	89	16

Q5-2. 就業規則を作成していますか

作成していない	336
作成しているが、労働基準監督署に届けていない	28
作成していて、労働基準監督署に届けている	53
未回答	15

Q6-1. 労働環境改善への取り組みの内容

作業環境の不具合がないようにする	306
従業員の意見を積極的に取り入れる	82
作業環境に関する新しい情報を入手する	128
生涯学習を支援する	67
その他	38
未回答	58

Q6-2. 歯科技工業務の効率化への取り組みの内容

補てつ物等の種類に応じて担当制としている	113
特定の補てつ物等のみの受注を行っている	169
ひとつの補てつ物等を作業工程ごとに分担している	59
歯科技工業務を行う者とそれ以外の業務(営業や梱包等)の者を分けている	89
新しい機器を導入している	107
その他	38
未回答	85

Q7. 補てつ物等における、業務形態、1カ月の製作個数、直近3年間の製作個数の変化

		業務形態				製作個数(1カ月) * 歯冠修復物は「歯数」 でカウント * 例: 3ユニットブリッジは「3」				製作個数の変化 (3年間)			未回答
		全患者を1人で担当	患者毎に分担	作業工程毎に分担	その他	1から9	10から49	50から99	100以上	変化なし	増加傾向	減少傾向	
クラウンブリッジ	保険分 305	209	36	31	9	14	69	76	123	84	31	158	32
	自費分 240	158	27	30	9	97	69	16	29	62	43	97	38
CAD/CAM冠	保険分 134	56	19	35	14	39	32	16	25	32	64	13	25
	自費分 93	35	13	26	10	31	31	5	10	29	37	10	17
有床義歯	保険分 240	148	19	36	7	18	112	63	29	84	43	77	36
	自費分 157	82	16	27	8	95	31	8	6	55	26	49	27
インプラント 上部構造	129	70	20	21	5	53	43	11	6	45	34	34	16
矯正装置	83	47	11	10	7	49	19	4	4	39	13	15	16

Q8-1. 補てつ物等の製作を受託している歯科医療機関数

平均 48 か所 (0~6000 か所) (未回答 28) 異常値があるため、次年度精査予定

Q8-2. 直近3年間でトラブルが原因の歯科医療機関との取引中止がありますか

ある	ない	未回答
115	296	21

Q8-3. (Q8-2で「ある」の場合) そのトラブルはどれですか

料金	品質	納期	補てつ物等に関する考え方の相違	その他	未回答
69	21	22	57	26	1

Q9-1. 補てつ物等の製作受託に関して歯科医療機関と契約書を取り交わしていますか

はい	いいえ	未回答
35	375	21

Q9-2. (Q9-1で「はい」の場合) 契約項目はどれですか

契約内容	契約期間	報酬金額	報酬支払時期	再製作時の費用負担	契約解除条項
20	3	24	7	5	4

資料 3-2：集計表（歯科医療機関）：回答数 576

Q1. 所在する都道府県

北海道・東北	関東・甲信越	東海・北陸	近畿	中国・四国	九州・沖縄	未回答
90	124	84	77	100	86	15

Q2. 開業年数

平均 24 年（1～95 年）（未回答 3） 異常値があるため、次年度精査予定

Q3. 1 日平均患者数

平均 32 名（2～120 名）（未回答 4） 異常値があるため、次年度精査予定

Q4. 全患者に対する補てつ物等を製作する患者の割合

平均 35%（0～100%）（未回答 51） 異常値があるため、次年度精査予定

Q5. 職員数（パートを含む）

総職員数	歯科医師数	歯科技工士数
平均 7.0 名 （1～80 名）（未回答 3）	平均 1.7 名 （1～12 名）（未回答 0）	平均 0.4 名 （1～10 名）（未回答 0）

Q6-1. 補てつ物等の製作場所

すべてを歯科技工所に委託	250
大部分を歯科技工所に委託、一部は院内	163
一部を歯科技工所に委託、大部分は院内	105
すべてを院内で製作	12
未回答	46

Q6-2. 製作を委託している歯科技工所数

平均 2.8 か所（1～8 か所）（未回答 1） 異常値があるため、次年度精査予定

Q6-3. 1 種類の補てつ物等を複数の歯科技工所に委託するケース（種類）

ない	ある	未回答
418	132 （種類は様々）	14

Q6-4. 補てつ物等の製作を委託した際のトラブル

ない・ほとんどない	ある	未回答
461	103 （具体例は様々）	0

Q7-1. 補てつ物等の製作委託に関して歯科技工所と契約書を取り交わしていますか

はい	いいえ	未回答
86	478	0

Q7-2. (Q7-1で「はい」の場合) 契約項目はどれですか

契約内容	契約期間	報酬金額	報酬支払時期	再製作時の費用負担	契約解除条項
50	9	63	26	19	11

Q8-1. 海外技工に関する下記の通知について

	内容も把握	知っており把握なし	知らない	未回答
国外で作成された補てつ物等の取り扱いについて (平成17年9月8日付け課長通知)	124	252	174	26
補てつ物等の作成を国外に委託する場合の使用材料の指示等について (平成22年3月31日付け課長通知)	83	165	298	30
歯科医療における補てつ物等のトレーサビリティに関する指針について (平成23年6月28日付け局長通知)	80	145	320	31

Q8-2. 海外技工の発注経験

ある(現在も発注している)	18
ある(現在は発注していない)	13
ない	502
知らない(把握していない)	17
未回答	25

Q8-3. 海外技工の発注開始時期 (n=31)

平成28年	平成27年	平成26年	平成25年	平成24年	平成23年
4	3	5	1	3	2
平成22年	平成21年	平成20年	平成19年	平成18年以前	未回答
3	1	2	1	4	2

Q8-4. 海外技工（自費）の発注物（n=31、複数回答）

クラウンブリッジ	4
有床義歯	16
インプラント上部構造	1
矯正装置	7
CAD/CAM による補てつ物	1
その他	3

Q8-5. 海外技工の発注先（n=31、複数回答）

中国	15
韓国	0
その他のアジア諸国	1
アメリカ	9
EU 諸国	3
発注国を把握していない	2
その他	1
未回答	1

Q8-6. 外注技工に占める海外技工の割合（n=31）

1%未満	1%～5%未満	5%～10%未満	10%～20%未満	それ以上
25	4	2	0	0

Q8-7. 海外技工の最大の発注理由（n=31）

精度が良い	0
値段が安い	5
安全性が高い	0
国内で製作する技術・材料がない	10
発注から納品までの時間が早い	2
保証期間が長い	0
費用対効果が高い	0
取引先の歯科技工所の勧め	10
未回答	4

Q8-8. 海外技工の発注に際しての患者の同意

得ている	得ていない	未回答
13	18	0

資料 3-3-1：集計表（歯科技工士：歯科技工所勤務）：回答数 319

Q1. 勤務する都道府県

北海道・東北	関東・甲信越	東海・北陸	近畿	中国・四国	九州・沖縄	未回答
10	62	96	78	45	24	4

Q2. 性別

男性	女性	未回答
290	28	1

Q3. 年齢

中央 54 歳（22～79 歳）（未回答 1） 異常値があるため、次年度精査予定

Q4. 現在の就業先

歯科技工所（管理者）	歯科技工所（勤務者）	歯科診療所	病院	未回答
232	82	4	0	1

Q5. 歯科技工士としての就業年数（パート・アルバイトを含む）

総計	中央 32 年（0.7～64 年）（未回答 1）
現在就業している場所での年数	中央 19 年（0.7～56 年）（未回答 6）
現在就業している場所	中央 2 カ所目（1～24 カ所）（未回答 21）

Q6-1. 補てつ物等における、業務形態、1カ月の製作個数、直近3年間の製作個数の変化

		業務形態				製作個数（1カ月） * 歯冠修復物は「歯数」 でカウント * 例：3 ユニットブリッジは「3」				製作個数の変化 （3年間）			未回答
		全患者を1人で担当	患者毎に分担	作業工程毎に分担	その他	1から4	5から9	10から29	30以上	変化なし	増加傾向	減少傾向	
クラウンブリッジ	保険分 223	152	34	24	5	9	14	33	154	66	20	124	0
	自費分 164	106	24	19	4	63	25	28	33	41	34	70	0
CAD/CAM 冠	保険分 86	32	12	26	9	26	15	14	24	20	46	13	0
	自費分 63	22	9	25	10	23	7	15	11	22	30	5	0
有床義歯	保険分 155	104	14	20	6	7	24	53	57	50	32	56	0
	自費分 92	57	6	15	7	54	11	5	10	33	19	29	0
インプラント 上部構造	74	40	15	11	4	26	21	12	9	24	22	22	0
矯正装置	47	30	6	4	5	26	5	4	6	22	7	13	0

Q6-2. 製作している補てつ物等の自費の割合

中央 1 割 (0~10 割)(未回答 41) 異常値があるため、次年度精査予定

Q7-1. あなたの歯科技工士としての前年(平成 28 年)の年収

中央 360 万円(0~2300000 万円)(未回答 41) 異常値があるため、次年度精査予定

Q7-2. あなたの歯科技工士としての年収の直近 3 年間の変化

変化なし	増加傾向	減少傾向
99	53	148

Q8-1. あなたの 1 日平均就労時間

中央 10 時間(2~20 時間)(未回答 17) 異常値があるため、次年度精査予定

そのうち残業:中央 2 時間(0~17 時間)(未回答 126) 異常値があるため、次年度精査予定

Q8-2. あなたの 1 日平均就労時間の直近 3 年間の変化

変化なし	増加傾向	減少傾向
137	39	130

Q8-3. あなたの 1 カ月の残業時間

ほとんどない	45 時間未満	45 時間以上	80 時間以上	100 時間以上	未回答
98	48	42	31	60	40

Q9. あなたが職務内容についてもっている意識をお聞きします

	そう思う	どちらかといえば	どちらかといえば	そう思わない
私は今の仕事に興味をもっている	131	116	24	31
私は仕事を通じて全体として成長した	114	133	21	33
私は歯科技工所や歯科診療所に勤めていたり開業していることを誇らしく思う	80	107	60	55
今の仕事は私に適している	119	122	35	26
社会の人々は、私の仕事を尊敬するに値する仕事だと思っている	49	98	89	67
私の仕事は「やり甲斐のある仕事をした」というかんじが得られる	88	129	39	47
私は同僚や受託している歯科医療機関のみんなに認められている	63	169	36	33
私は仕事をしていて着実な人生設計がたてられる	35	86	86	95

Q10. あなたのよく利用する歯科技工に関する学習手段

歯科技工士会等の生涯研修事業	75
各種学会の学術大会	72
スタディグループ	56
メーカー主催の研修会	128
専門誌	177
卒後研修事業	19
その他	17

資料 3-3-2：集計表（歯科技工士：歯科医療機関勤務）：回答数 167

Q1. 勤務する都道府県

北海道・東北	関東・甲信越	東海・北陸	近畿	中国・四国	九州・沖縄	未回答
40	12	23	25	49	16	2

Q2. 性別

男性	女性	未回答
128	38	1

Q3. 年齢

中央 49 歳（20～80 歳）（未回答 0） 異常値があるため、次年度精査予定

Q4. 現在の就業先

歯科技工所（管理者）	歯科技工所（勤務者）	歯科診療所	病院	未回答
16	6	141	3	1

異常値があるため、次年度精査予定

Q5. 歯科技工士としての就業年数（パート・アルバイトを含む）

総計	中央 27 年（0.5～62 年）（未回答 0）
現在就業している場所での年数	中央 20.5 年（0.2～48 年）（未回答 1）
現在就業している場所	中央 2 カ所目（1～8 カ所）（未回答 7）

異常値があるため、次年度精査予定

Q6-1. 補てつ物等における、業務形態、1カ月の製作個数、直近3年間の製作個数の変化

		業務形態				製作個数（1カ月） * 歯冠修復物は「歯数」 でカウント * 例：3 ユニットブリッジは「3」				製作個数の変化 （3年間）			未回答
		全患者を1人で担当	患者毎に分担	作業工程毎に分担	その他	1から4	5から9	10から29	30以上	変化なし	増加傾向	減少傾向	
クラウンブリッジ	保険分 145	98	24	8	12	5	12	41	80	74	14	49	0
	自費分 71	34	16	6	9	30	10	17	5	32	8	23	0
CAD/CAM 冠	保険分 35	13	4	7	9	8	9	7	8	12	15	4	0
	自費分 27	11	4	4	7	4	8	3	4	6	11	2	0
有床義歯	保険分 81	38	10	21	9	14	15	32	10	41	10	24	0
	自費分 30	4	4	10	8	16	2	2	4	14	3	5	0
インプラント 上部構造	37	16	8	2	9	16	6	7	0	19	4	7	0
矯正装置	40	17	9	6	7	25	2	4	1	21	3	11	0

Q6-2. 製作している補てつ物等の自費の割合

中央 1 割 (0~10 割)(未回答 26) 異常値があるため、次年度精査予定

Q7-1. あなたの歯科技工士としての前年(平成 28 年)の年収

中央 400 万円(0~1153 万円)(未回答 14) 異常値があるため、次年度精査予定

Q7-2. あなたの歯科技工士としての年収の直近 3 年間の変化

変化なし	増加傾向	減少傾向
74	55	28

Q8-1. あなたの 1 日平均就労時間

中央 8 時間(3~18 時間)(未回答 12) 異常値があるため、次年度精査予定

そのうち残業:中央 1 時間(0~12 時間)(未回答 52) 異常値があるため、次年度精査予定

Q8-2. あなたの 1 日平均就労時間の直近 3 年間の変化

変化なし	増加傾向	減少傾向
109	14	38

Q8-3. あなたの 1 カ月の残業時間

ほとんどない	45 時間未満	45 時間以上	80 時間以上	100 時間以上	未回答
75	59	12	7	5	9

Q9. あなたが職務内容についてもっている意識をお聞きします

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	未回答
私は今の仕事に興味をもっている	73	73	11	3	7
私は仕事を通じて全体として成長した	54	92	9	5	7
私は歯科技工所や歯科診療所に勤めていたり開業していることを誇らしく思う	41	93	17	10	6
今の仕事は私に適している	58	82	12	7	8
社会の人々は、私の仕事を尊敬するに値する仕事だと思っている	22	67	45	23	10
私の仕事は「やり甲斐のある仕事をした」というかんじが得られる	49	91	12	7	8
私は同僚や受託している歯科医療機関のみんなに認められている	33	97	19	9	9
私は仕事をしていて着実な人生設計がたてられる	21	81	39	16	10

Q10. あなたのよく利用する歯科技工に関する学習手段

歯科技工士会等の生涯研修事業	31
各種学会の学術大会	23
スタディグループ	15
メーカー主催の研修会	56
専門誌	102
卒後研修事業	7
その他	19

・研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の 編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
該当なし							

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
該当なし					